

第一次地域福祉活動計画

計画期間:平成26年4月1日から平成31年3月31日まで(5カ年計画)

平成30年度実行計画進行管理



取手市社会福祉協議会

Toride city council of social welfare

とりでYOU・Iのまち

「とりでYOU・Iプラン」の進行管理

1 目的

この方針は、「とりでYOU・Iプラン」（以下「プラン」という。）を効果的かつ効率的に推進するため、プランに基づく様々な取り組みについて検証し、継続的に改善することによりプランの円滑な進行管理に資することを目的とする。

2 進行管理の対象

(1) 行動計画の評価

- ・実施項目において、成果の評価及び今後の方向性について個別評価を行う。
- ・評価結果は、実施項目シート毎に記入する。

3 進行管理の実施体制

(1) 事業所及び担当者の役割

- ・実施項目の企画・実施にあたる担当者が、実施項目毎に成果を評価し、今後の計画の進行状況を確認・見直しをする。
- ・担当者が行った進行管理について、事業所内で共有化し評価・検討する。また、必要に応じて実施項目の担当者の評価を基に振り返りを行い、事業所としての評価としてまとめるとともに、課題を明らかにし、共通理解を図りその解決方法を検討する。
- ・行動計画の進行進捗状況について、年度内に取手市社会福祉協議会運営委員会に報告し、助言を受けることとする。
- ・助言等を受け行動計画の修正を図り、年度末にその状況等を取手市社会福祉協議会運営委員会に報告する。

4 評価の基準

(1) 成果状況の評価基準

評価区分	成果内容
5	順調に計画通り進行した
4	概ね順調だが不十分な点が少しあった
3	実施されている部分もあるが不十分な点も多い
2	既に実施予定の時期であるが、まだ取り組んでいない
1	実施方法も含め事業実施に再検討が必要であり、取り組んでいない

※年度当初に作成する、年間の事務事業執行計画に対しての成果状況とする。

5 進行管理の実施時期

(1) 成果状況評価

- ・1月中旬に（4月～3月見込み実施分）の成果状況の評価を実施する。

(2) 今後の計画の進行状況を確認・見直し

- ・年度末（1月中旬）に1回実施する。
- ・担当者及び事業所が行った評価結果について、1月の事業所連絡会議において確認・検証する。

6 進行管理の実施結果

- ・進行管理の実施結果については、取手市社会福祉協議会運営委員会及び理事会・評議員会に報告する。
- ・進行管理の実施結果については、必ず担当者が次年度担当者に引き継ぐ。

第一次地域福祉活動計画（とりでYOU・Iプラン） 平成30年度実行計画進行管理

1. 基本方針

平成30年度のYOU・Iプラン（平成26年度～平成30年度）は、「市民ひとりひとりが、その人らしく地域で安心してくらす福社のまちづくり」の基本理念を踏まえ、5年目を迎えることから、前年度の事業の評価検証並びに事業精査の遂行を踏まえ、住民主体の地域福祉の一層の向上を目指し、行政や福祉関連の団体・事業所との密接な連携を図り、効率的・効果的な行動計画の進行管理に努めてまいりました。

2. 平成30年度の新たな取組み

● 地参地笑（ちさんちしょう）プロジェクトを実施

昨年度のとりまち助け合い活動とりまち地域みまもり活動の更なる取組みとして、地域での趣味サークル活動推進、世代間交流、仲間づくりによる、地域での助け合い活動の活性化を図ること。地域のことを良く知り、地域の課題を身近なものとし、地域住民のアイデアを盛り込んだ新たな福祉サービスを生み出すことを目的としたものです。

地域のイベントやサークル活動に参加し、地域交流の活性化により地域内でのささやかな助け合い活動へ発展し、多くの住民が新たな福祉サービスにより、お互いさまの心のもとに互いが笑いあえる、より良い地域づくりを目指しました。「地参地笑」という新たな言葉（造語）の示すよう新しい福祉サービスへ昇華させるべく取組みを実施してきました。

● 市民後見人養成講座を実施

昨年度は取手市における権利擁護事業について、「地域で支えあう仕組みづくり」に向けて、市民で市民を支える市民後見について、「取手市市民後見のあり方に関する検討委員会」において検討を重ねて取手市の市民後見人養成について取りまとめました。今年度は、市民後見人養成のための市民後見人養成講座を開催し、32名の市民後見人を養成しました。今後は養成講座修了者に対して更なるステップアップが図れるような取組みの充実を図っていきます。

● 第二次地域福祉活動計画の策定

住み慣れた取手でずっと暮らし続けたいということは、多くの市民に共通した願いです。そのためには、公的施策だけではなく、市民の皆様と一緒に、この地域を人と人とのつながりに満ちた福祉社会に変えていかなければなりません。

現在、全国社会福祉協議会では、社協活動のあり方や今後の活動強化の方向性を示した、「社協・生活支援活動強化方針」と、その具体化を図るための第2次アクションプランを策定しておりますが、その強化方針の大きな柱として、「あらゆる生活課題への対応」と、「地域のつながりの再構築」を掲出しております。

そこで、社協の第二次取手市地域福祉活動計画の策定に際しましては、全社協の強化方針を基本としながらも、これまでの社協独自の取組みと現状を踏まえ、ソーシャルワーク機能の更なる充実と、地域での地域福祉活動の進展、総合相談機関としての位置付けを明確にした活動計画となるよう方針を定め、検討を十分に重ね平成31年度からの5カ年計画を策定しました。

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成30年度	
実施項目名	地参地笑(ちさんちしょう)プロジェクト	担当係		地域支援係
		担当者	職名	係長
事業開始年度	平成30年度		氏名	小林一郎
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	1	もっと学ぼう知らせようー情報の共有促進	
	行動計画	①	住民の福祉ニーズや情報を共有し活動につなげます。	
現状と課題	<p>買い物やゴミ出しなどちょっとした困りごとを頼める関係作りが難しい。地域での交流や趣味のサークル活動を促進し、地域内でのささえあいの活動が自然にできるまちづくり、他地域からの生活支援サービスが必要なくなるような、地域での困りごとを、自分たちで解決できる仕組みづくりが必要となってくる。健康寿命を延ばし、誰もが地域の役割を担えるような、地域住民の知恵と人材を駆使して解決していく地域支援体制の構築を推進する。</p>			
目的 (何のために)	<p>高齢化が加速し、介護保険サービスの利用は困難になる。健康寿命を延ばし、介護予防の取り組み、地域での交流活動、共通の趣味を持つ方たちで作るサークル活動を推進し、仲間づくりと特技を生かしての生活支援サービスの創出など、地域の課題を地域の中で解決するための仕組みづくりを目的に地域への啓蒙啓発活動を実施する。</p>			
対象 (誰・何を対象に)	取手市全域			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させたい のかなど)	<p>4月市政協力員総会において地参地笑プロジェクト概要と地域の見守り活動や、生活支援に関するハンドブック、高齢者クラブやふれあいサロン立ち上げについての様式等を収録したCDを配布。地域で活動を始めるにあたって必要な各種様式等をデータとして保管していただき、必要な方にデータ使用していただく。地域の活動を始める一つのきっかけづくりとして活用していただく。また、各地域の代表の方にお渡ししていききたいと思います。</p>			
平成30年度 の実施状況	<p>4月市政協力員総会において地参地笑プロジェクト概要と地域の見守り活動や、生活支援に関するハンドブック、高齢者クラブやふれあいサロン立ち上げについての様式等を収録したCDを配布。市内4ヶ所の地域包括支援センターに「地参地笑」CDとCDのファイルの内容について記した用紙を配布。広く地域での活動に役立てられるよう、地域包括支援センターでも社協で行う「地参地笑プロジェクト」について把握していただけるよう、説明しました。</p>			

進行 管理	成果 状況			成果状況に対する説明	
		4月～ 3月	3	市政協力員への地参地笑CDを配布したが、活用することができているか、確かめる方法がない。また、周知がなかなかできず、問い合わせが少ない状況にあります。必要な団体等に配布できるように広報に工夫が必要になります。	
	課題				
	「地参地笑プロジェクト」についての周知をして、地域の見守りや生活支援サービスの充実など、地域福祉や街づくりについて関心を持ってもらえるような仕組みづくりが必要です。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	地域に広く知ってもらえるよう、今後も市政協力員に「地参地笑」CD配布を行い、地参地笑の内容も様々なマニュアル等を増やして、さらに使いやすいものにしていきます。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	地域包括支援センターや市民協働課など地域の情報が集約する部署でも、連携しながら、地域のことを考える団体や人を発掘して協力体制を構築していきます。				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		30年4月 ～ 31年3月	地参地笑の取り組みと同じく、地域福祉について考える第1層協議体や第2層協議体でも様々な取り組みを行っているため、役立つ情報を盛り込み、地域で必要とするサービスや団体の立ち上げに関するマニュアル等を作って地参地笑CDに増やしていきます。		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
第二次地域福祉活動計画も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成30年度
実施項目名	生活課題を抱えている人への支援	担当係	藤代支所
		担当者	職名 係長 氏名 五十嵐玉枝
事業開始年度	平成26年度		
根拠法令等			
プランにおける 該当項目	行動目標	1	もっと学ぼう、知らせよう—情報の共有促進
	行動計画	①	社会資源に関する情報の収集と提供に努めます
現状と課題	<p>世代や地域によって生活課題も多様で、どのような制度や施設、公的機関、医療機関、人的資源があるのか、どう調べればいいのか、わかりにくい状況です。</p> <p>役立つ情報を提供できるように、アンテナを張って、さまざまな制度等を伝えていく必要があります。</p> <p>インターネットでの情報収集が主流の現在、ホームページやフェイスブックの新しい情報の発信や、一方で紙面での情報が必要な世代の方々にも、わかりやすく情報を伝えることが大切です。</p>		
目的 (何のために)	相談できずに困っている人、どこに何をどう聞いたらいいかわからない人を一人でも減らしていくため		
対象 (誰・何を対象に)	市民全般		
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで に・どのレベル まで達成させたい のかなど)	<p>市民の生活課題に応えられるよう、社会資源に関する情報を収集し、情報誌、ホームページ、フェイスブックなどで紹介していく。 (社協や行政等で実施している相談事業や窓口の紹介を継続して実施)</p> <p>各事業所と連携を図り、情報をいただく。写真やイラストなどを多用し、わかりやすいWebページ、誌面作りをする。</p> <p>他市町村社協や行政等のホームページや情報誌も参考にして内容の充実を図り、読みやすいものにしていく。</p>		
平成30年度 の実施状況	<p>ホームページ・情報誌・フェイスブックでの広報活動</p> <p>ホームページ</p> <ul style="list-style-type: none"> 各事業所の事業・行事や研修、講演会等の告知、各種ボランティア養成講座等の参加者募集、職員採用試験告知、他 <p>アクセス数 60,837件、お知らせ欄告知 30件 (1月中旬まで)</p> <p>情報誌</p> <ul style="list-style-type: none"> 八重洲ニュータウン自治会紹介、取手二高・紫水高ボランティア紹介、ボランティアサークル紹介、募金・義援金募集、報告他 <p>フェイスブック</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月～1月中旬 各事業所発信 126件 (1月中旬まで) 		

進行管理	成果状況	成果状況に対する説明	
		4月 ～3月	3 各種相談事業、くらしサポートセンター等が充実、浸透してきて、お客様の相談や疑問に対応できてきたように感じる。
	課題		
	読みやすい、わかりやすい誌面（ページ）作り。 地域や年代、家族構成によっても、抱えている問題が違うので、一つ一つに焦点を当てた情報の提供。		
	課題解決のための改善内容・取り組み方針		
	常にアンテナを張って情報を収集する。制度などはいくつかの選択肢や方向性をわかりやすく伝える。		
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)		
	市民の方、各事業所、市役所、地域包括支援センター、また民間の企業等、最新の情報をいただけるように連携を図る。		
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明
		31年4月 ～ 32年3月	引き続きいろいろな所に出向いて生活課題や情報を把握し、制度や事業をわかりやすく伝えていく。 またボランティアなどの人材増のために提供できる講座やイベントなどの情報を引き続きホームページやフェイスブックで発信していく。 情報誌は読みやすい誌面作りを心がける。
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			
第二次地域福祉活動計画も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。			

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成30年度	
実施項目名	福祉教育プログラム作成	担当係		地域支援係
		担当者	職名	係長
事業開始年度	平成26年度		氏名	小林一郎
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	1	もっと学ぼう知らせようー情報の共有促進	
	行動計画	②	福祉教育プログラムを作ります	
現状と課題	小中学校等福祉体験を実施にあたり徐々に認知度が上がってきている。しかし、学校によってやる内容が決まっている。様々なボランティア体験についても説明して活動につなげる。車イス、アイマスク白杖、シニア体験については依頼が多いが、福祉体験のボランティア養成講座によりボランティアも増えてきている。今後も継続して福祉体験ボランティア養成講座を実施してボランティアを増やしていく。			
目的 (何のために)	社協での福祉体験は一部の教員が把握し実施している傾向が強いが、福祉教育プログラムを作ることで内容を把握し、福祉体験等の依頼がしやすくなる。福祉体験を通して、高齢者や障害者の気持ちを理解しボランティア精神や活動への関心を高めることができる。			
対象 (誰・何を対象に)	小中学校高校児童生徒			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させたい のかなど)	5月校長会において福祉体験の内容等詳細を一覧にした冊子「やさしい心の種をまく」を配布。各学校で福祉体験を取り組んでもらうよう説明する。7月中には中学、高校へ夏休み中に活動できるボランティア活動やイベント情報を提供し、生徒に周知してもらい参加を募る。8月福祉体験ボランティア養成講座を開催。中学・高校生にも参加していただき、ボランティア活動の参加につなげる。			
平成30年度 の実施状況	5月校長会において社協で実施している福祉体験の内容等詳細を一覧にした冊子「やさしい心の種をまく」を配布。今年は5月に行われた子供会育成連合会総会でも各子ども会の方たちに向けて「やさしい心の種をまく」を配布。社協で行っている福祉体験ボランティアの派遣等の取り組みについてを知ってもらうための広報活動を試みました。7月とりで障害者協働支援ネットワークの方と市内の中学校、高校14校へ訪問し、夏休み期間中のイベントやボランティア講座等の開催について説明を行いました。また、今年度はとりで障害者協働ネットワークと共催で「夏休みボランティア講座」を開催。今年初めて江戸川学園中等部と高等部にもポスターとチラシを配布したところ、高校生の参加がありました。			

進行管理	成果状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月～3月	4	今年度は視覚障害者当事者の講話や車いすでの生活をしている身体障害者当事者の講話、近年あまり行っていなかった昔遊び体験を小学校に派遣しました。今年度は回数も若干多く、内容も幅広く行いました。福祉体験冊子「やさしい心の種をまく」により各学校での福祉体験の内容の認知度が上がったと予想されます。また、取手小学校の5年生よりお年寄り向けにメッセージカードを作っていただき、グループさつき、むつみ会、サロンかたらい、サロンおおとねに配布しました。小学校でも様々な取り組みで地域とのつながりが持てるよう、社協としても企画できればと考えます。	
	課題				
	車イス、アイマスク白杖、シニア体験は安定して行われるようになりました。今年度のように障害当事者の話や昔遊び、お年寄りのメッセージカードなど様々な体験につながるよう広報を継続して行えることが重要です。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	新たな福祉体験の内容について取り組んでいただくよう、他の学校で特色ある体験については、校長会の説明において、よりアピールして、子供たちの様子などを伝えて、各学校に広めていきます。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	福祉体験ボランティアの車イス、アイマスク白杖、シニア体験のボランティアについてはシルバーリハビリ体操指導士の会から多く参加しているため今後も呼びかけをするとともに個人ボランティアに参加を促します。				
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明		
		30年4月～31年3月	各学校で同じように福祉体験ができるよう、また定着に向け、校長会での福祉体験の内容等、詳細を一覧にした冊子「やさしい心の種をまく」を配布し、その需要にこたえられるよう、福祉体験ボランティア養成講座開催の広報をし、ボランティア育成にも力を入れます。また、福祉体験の新たな項目も追加して幅広く内容を充実させていきます。		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
長年福祉体験をやってきて、色んな機材、教材、道具を長年使っていると、ゴムの伸縮性、強度がなくなってきました。教材ですので怪我を防ぐためにも、予算化して何年かの間に補充もしくは、入れ替えをお願いしたいと思います。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成30年度	
実施項目名	ボランティアの新規登録増加	担当係		地域支援係
		担当者	職名	主幹
事業開始年度			氏名	廣瀬嘉子
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	2	支えられ、支え合おう	
	行動計画	①	趣味サークルを有効に活用します。	
現状と課題	近年、少子高齢化や核家族化・高齢者世帯の増加・価値化の多様化・生活不安の増大など、地域に対する関心の希薄化が問題になっている。また、見守りが必要な人の増加など地域の福祉課題が徐々に拡大している。一方、住民の中には、ボランティア活動に関心を持つ人や退職後に地域を中心とした生活を送ることを望むひとが増えている。地域の福祉的なニーズに対し、住民同士で助け合いお互いに支えあえる地域づくりのために、地域福祉推進の担い手となるボランティアを養成することを目的とします。			
目的 (何のために)	ボランティア活動には“助け合い”ということのみならず社会の発展となる重要な役割を有しています。地域の中で担い手となるボランティアを養成する。			
対象 (誰・何を対象に)	市内在勤在住のボランティア活動に興味のある方			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた いのかなど)	<p>ボランティアの育成・研修を目的に下記講座を開催。各種講座終了後、ボランティア活動につながる為のアンケートを実施する。また講座終了後20%のボランティア登録を目指す。</p> <p>【講座内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①手話奉仕員養成講座 ②点字講習会 ③朗読ボランティア養成講座 ④絵本お話しボランティア講座 ⑤身体障害者（児）支援講座 ⑥精神保健ボランティア養成講座 ⑦福祉体験ボランティア養成講座 ⑧男性講座 ⑨男性料理教室 			
平成30年度 の実施状況	<p>現在、講座が修了したものは9講座中、6講座が終了しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ③朗読ボランティア養成講座（8名） ④絵本お話しボランティア講座（10名） ⑥精神保健ボランティア養成講座（9名） ⑦福祉体験ボランティア養成講座（13名） ⑧男性講座（5名） ⑨男性料理教室（20名） <p>現在、開催中の講座は手話奉仕員養成講座（9名）</p> <p>今後、開催する講座は</p> <ul style="list-style-type: none"> ②点字講習会（2月） ⑤身体障害者（児）支援講座（2月） <p>そして、年度内に新規講座「傾聴ボランティア養成講座」が新規に開催され24名の参加があり、ボランティアサークルが立ち上がりました。</p>			

成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明
	4月～ 3月	3	講座終了後、ボランティア活動をする方は横ばい状態です。今年度は、受講後にアンケートを実施しました。志望動機や今後の活動の有無の記入欄には活動希望と記入されていましたが、実際には活動するのが難しいのが現状です。
課題			
講座に興味があつての受講だと思いますが、受講後にはボランティアを行うことには結びつかない状況です。			
課題解決のための改善内容・取り組み方針			
アンケートの内容の見直しをし、住民のニーズをより知る内容に変更したいと思います。ボランティア養成講座以外の移送サービスや在宅福祉サービス、またはファミリーサポートセンターなどのボランティア活動の周知も行い、幅広い情報を発信したいと考えています。			
協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
アンケートの記載の欄への問いに「講座を何で知りましたか？」の回答は「広報とりで」が多かった為、講座開催の周知方法は広報とりでが有効かと考えます。広報広聴課にも大きく取り上げてもらえるよう要望します。またキューピットやポスター掲示の方法も継続的に行っていききたいと思います。			
今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
	31年5月～ 31年8月	ニーズ調査の為のアンケートの内容を見直しする。また、ボランティアをはじめるにあたって、どのようにすれば参加出来きやすいかを市民に説明、誘導を出来るように十分に検討する。	
	31年9月～ 31年12月	今年度も引き続き講座終了後にアンケート内容を実施し、ニーズ調査のもと市民のボランティア意識に関することを分析し、アンケートで収集したデータをもとに今後の参考にしていく。	
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			
第二次地域福祉活動計画も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。			

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成30年度
実施項目名	移動運転者講習会	担当係	地域支援係
		担当者	職名 主幹
事業開始年度	平成25年度	氏名	廣瀬嘉子
根拠法令等	【国土交通省認定研修（認定番号：国自旅第197号）】		
プランにおける 該当項目	行動目標	2	支えられ、支え合おう一担い手の育成
	行動計画	②	専門的なボランティア活動を促進していきます。
現状と課題	総人口が減少する中で高齢者が増加することにより、高齢化率は上昇を続ける現状である。毎年移動運転者講習会は開催しているが市内3団体で行っている移動サービスはニーズが増える一方で、まだまだ運転ボランティアが不足している。運転ドライバーの更なる増員を目指す。		
目的 (何のために)	市内の移動困難者を支えるために講習会を開催する。移送サービスの担い手として市内3団体での活動を充実させる。		
対象 (誰・何を対象に)	68歳未満の茨城県南地域在住・在勤者（普通運転免許保持者）		
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させたいのかなど)	<p>利用者が増加しボランティア不足の問題が深刻化している為、今年度も2日間の講習会を2回実施する予定。その際のPR方法については重要となり、高齢福祉課の協力により「広報とりで」のトップページに掲載の協力を依頼。</p> <p>国土交通省の認定する講習会を2日間にわたり開催。（1開催：定員24名）</p> <p>1日目は、移動サービス概論や運転に必要な知識と心構え、リスクへの対応、セダン利用者理解等の講義を行う。</p> <p>2日目は、基礎的な接遇技術及び介助技術及び実技演習、福祉自動車の特性（演習を含む）そして、運転ドライバーによる路上運転実技、ヘルパーによるセダン利用者介助実技等を行う。</p>		
平成30年度 の実施状況	<p>市内3団体（社会福祉協議会・NPO法人生きる・藤代なごみの郷）でドライバー不足問題が続いているのが現状であります。今年度も6月と11月に（全2日間）年2回の福祉有償運送講習会を実施しました。</p> <p>第1回目は12名が受講し、社会福祉協議会には2名（男性1名・女性1名）が登録をいただき、現在も活動中です。第2回目は11名が受講し、3名が登録（男性2名・女性1名）、2名の方に活動していただくことになりました。</p>		

進行管理	成果状況評価		成果状況に対する説明	
	成果状況	4月～3月	4	
	課題			
	3団体とも今年度の新規ドライバー登録はありました。しかし、年齢で退く方が今後増えていくと考えられる為、これからもドライバーの新規登録は必要になります。まだまだ必要不可欠であります。現在の状況ですと定年退職の年齢がさらに延長になる為、ドライバーの不足が深刻になると考えられます。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	仕事をしながらでも空いている時間に無理のない範囲で出来るボランティアであることをPRしていく必要がある為、更にポスターやチラシの配布を強化する必要があると考えられます。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	市役所で移送サービスを担当している高齢福祉課と活動団体(3団体)での定例会を継続的に開催。そして、県内にかかわらず県外の活動状況の調査等もしていく。			
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明	
		31年5月～32年8月	福祉有償運送講習会の開催について検討し、更に広報活動に力を入れる。また、昨年度後半から講師が2名に減少してしまい講師の負担が大きい為、外部講師を依頼するなど合わせて検討していく。	
	31年9月～32年12月	福祉有償運送講習会を年2回開催。高齢福祉課にも協力を頂き更に広報活動をして、一人でも多くの方に受講していただく。		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
第二次地域福祉活動計画も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成30年度		
実施項目名	災害ボランティア育成		担当係		地域支援係
			担当者	職名	係長
事業開始年度	平成26年度			氏名	小林一郎
根拠法令等					
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実		
	行動計画	①	緊急支援できるボランティアを組織化します		
現状と課題	いつ起こるかわからない災害時の対策について地域との連携、組織化がされてなく緊急時の対応に難しい状況にある。平時より防災に関する知識や地域の自主防災会との連携が取れるよう関係作りが必要。				
目的 (何のために)	災害時ボランティアセンターを立ち上げた時に各地域でのボランティアを平時より育成し有事の際に迅速に対応できる協力体制が取れるよう、組織づくりをする。				
対象 (誰・何を対象に)	取手市民一般				
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させたいのかなど)	10月に災害の知識と災害支援について学習する防災ボランティア養成研修会を開催。防災意識を高め、地域での防災訓練等への参加につながるよう、地域防災についても考えるきっかけになるようにする。また、県社協の防災ボランティアに登録している方へ研修会の参加案内もし、フォローアップの一環として参加してもらうことで継続して意識向上を促す。各地域の防災訓練等にも参加し、社協との関係強化も図る。				
平成30年度 の実施状況	10月県社協に登録している防災ボランティアと市民を対象として防災ボランティア研修会を開催。元静岡県地震防災センター職員片井氏を講師に近年における降雨災害や土砂災害の講義避難所運営ゲームHUGの体験を実施しました。今年は災害が多数発生したため、関心が高く参加者も47名と多数ありました。HUGは避難者をカードにしたもので様々な家族構成、家族単位で来たり、外国人や傷病者など1人できたり、実際に起こりうる避難者を想定して配置していくため、災害時の混乱を想像できるものです。今後各地区でHUGを開催できるようまずは体験していただくために開催しました。また、実際の自主防災会の活動を知るため、中央タウン自主防災会、桜が丘自主防災会、光風台自主防災会、新取手自主防災会、つつじが丘自主防災会の避難訓練に参加。そのほか戸頭町会の防災の集い「災害時助け合い検討会」にも参加しました。				

進行 管理	成果状況評価		成果状況に対する説明	
	成果状況	4月～3月	4	防災ボランティア研修会では避難所運営ゲーム(HUG)を体験し、参加者に、災害時避難所の混乱や災害時の対応、災害に対する備えについて知っていただき、考えるきっかけになりました。今回自主防災会からの参加もあり、地域に帰って避難所開設についてや防災対策などの参考にもなったと思われます。今後参加者が自分たちの地域でHUGを使った研修会を行うことができれば、より身近な問題として多くの方が防災についてや避難所の混乱などを知ることができます。また、取手市内の自主防災会主催の避難訓練では、地域の実情と自主防災に携わる役員の皆さんに社協としての取り組みを知ってもらい、実際に災害が発生した時の協力体制を構築するためにも継続して視察に行くことが重要になります。
	課題			
	避難訓練時の車いす体験等自主防災会での依頼があり現在行っていますが、今後はさらに多くの地域で開催できるよう、合同で行う研修会の開催についても実施していければ、さらに社協と地域との災害に関する連携ができるようになります。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	今回社協で行った避難所運営ゲーム(HUG)は社協で所有しており、貸し出しができるため広報をして貸し出しを行い、多くの地域で避難所についての研修会が開催できます。さらに内容を充実させ、各地域で災害の研修会に参加できるようになります。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	地域の自主防災会への社協開催の研修会参加の要請や避難訓練時での車イス講習会、避難所運営ゲーム(HUG)体験を実施するなど協力関係の構築。防災について社協との関係性がより身近になるよう努めます。			
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明	
		30年4月～31年3月	防災ボランティア研修会の開催。県社協の防災ボランティアのフォローアップ研修も開催し災害に関する啓蒙啓発活動を引き続き行います。避難訓練にも積極的に参加し、地域との連携を目指し合同研修会や車いす講習会も継続して行います。	
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
社協の職員さんも広島や北海道に行ってボランティア活動を行っているので、全地域で活動している状況の報告会をしてほしいと思います。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成30年度	
実施項目名	相談支援事業	担当係		生活支援係
		担当者	職名	相談支援専門員
事業開始年度	平成25年12月から		氏名	佐藤晶彦
根拠法令等	障害者総合支援法			
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう一福祉サービスの充実	
	行動計画	②	一人で抱え込まないための相談支援活動の充実	
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ■利用者に対して、ニーズの聞き取り、計画の作成等に多くの時間を要する。関係機関との連携、各事業所の担当者の協力を得ながらスムーズに取り組めるような配慮が必要。 ■相談支援専門員の社会資源情報の不足。 ■適切なプランニングにおける相談支援専門員の専門性、資質向上。 			
目的 (何のために)	<ul style="list-style-type: none"> ■障害福祉サービスの利用を希望される方に対し、個々のニーズに合った総合的な援助や、解決すべき課題を踏まえ、最適なサービスのプランニング、モニタリングをおこなう。障害者やその家族の生活支援に関する相談に応じ、関係機関との連携を密にとり、住み慣れた地域において生活できる体制をつくる。 			
対象 (誰・何を対象に)	<ul style="list-style-type: none"> ■障害者総合支援法の計画相談支援の対象者 ○取手市在住の方で、障害福祉サービスを申請した障害者又は障害児であって、市町村がサービス等利用計画の提出を求めた方。 			
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまでにどのレベルまで達成させたのかなど)	<ul style="list-style-type: none"> ■事業の効率化 ○相談支援専門員の専門性、資質の向上（他事業所との意見交換会、事例検討）。 ○報酬改定があり、今後専門性も必要とされることから、強度行動障害支援者養成研修、要医療児者支援体制、精神障害者支援体制を整えるため、研修開催を確認し、今年度中に研修へ参加。 ○自立支援協議会等、専門研修への参加（定期的に参加 年4回程度）。 ■利用者への支援 ○障害福祉課、子育て支援課、こども発達センター、特別支援学校との連携、他事業所との情報交換を定期的におこなう（随時）。 ○定期的なモニタリングを実施し、事業所との連携を図りながら、利用者の状態確認をおこなう（随時）。 ○必要に応じてサービス担当者会議を開催し情報の共有を図る（随時）。 ○新規事業所への見学をおこない、社会資源を見つけていく（随時）。 ○児童計画において、保護者と関係性を築きながら、今後の方向性を関連機関と連携を図り、保護者と共に考えていく（随時）。 			
平成30年度 の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ■事業の効率化 ○強度行動障害者支援者養成研修（基礎研修・実践研修） ○他事業所との連携、情報共有を図ることができた。また、相談支援部会等において、他事業所の計画内容の確認、連携、情報共有、意見交換を行うことができた。 ■利用者への支援 ○障害福祉課、子育て支援課、こども発達センター、特別支援学校、市内小学校、他事業所、児童相談所等との情報共有、意見交換をおこない、利用者への支援において連携して取り組むことができた。 ○モニタリングを定期的におこなうことで、利用者の状況確認をおこなうことができた。 ○困難ケース等において、必要な場合に担当者会議を開催し、利用者、ご家族への支援において関係機関との連携を図ることができた。 ○新規事業所への見学においては随時おこなうことができた。 ○計画において、保護者からの要望に答え、関係機関と連携を取りながら、適切な提案を提示することができた。 			

進行 管理	成果状況評価		成果状況に対する説明	
	成果 状況	4月～ 3月	3	
	課題			
	<p>困難ケースも増えてきており、他事業所との連携、対応できる知識、人脈、社会資源の開発が今後にも必要になる。保護者と本人との意見が違うなどのことから、中々先に進まないことがあり、難しさを感じるケースもある。児童計画についても同様、家庭環境が複雑なケースがあり、より多くの関係機関との連携が必要と思われる。</p>			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	<p>時間を有効に使っていく必要がある。電話対応で状態の確認、支援施設での様子等定期的におこなっていく。また、相談支援事業所だけで進めていくのは困難なため、多くの関係機関との連携、相談を随時おこなっていく。また、新たにできた事業所への見学も随時おこなっていく。</p>			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	<p>様々な事例に対応していけるよう、支援員の知識向上(専門別研修会への参加、意見交換会等への参加、福祉情報への関心)他事業所等との連携をおこなっていく。行政との連携も重要になるので、随時情報の共有を図っていく。</p>			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		30年4月 ～ 30年9月	相談支援員の専門性を高めていく必要がある(積極的な研修への参加)。他事業所がおこなう情報交換会、自立支援協議会、相談支援部会への参加をしていく。情報収集として、常に最新の情報を確保していく。	
	30年10月 ～ 31年3月	相談支援員の専門性を高めていく必要がある(積極的な研修への参加)。他事業所がおこなう情報交換会、自立支援協議会、相談支援部会への参加をしていく。情報収集として、常に最新の情報を確保していく。定期的な研修を含め社会資源の開発を視野に入れていく。		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
<p>第二次地域福祉活動計画も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。</p>				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成30年度	
実施項目名	取手市成年後見サポートセンター	担当係		生活支援係
		担当者	職名	課長補佐
事業開始年度	平成28年度		氏名	市毛宏明
根拠法令等	民法			
プランにおける該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう——福祉サービスの充実	
	行動計画	②	一人で抱え込まないための相談支援活動の充実	
現状と課題	<p>私たちが日常生活を営む中では、商品購入や社会福祉サービス利用、財産処分など、さまざまな場面において契約行為が行われ、これらの契約によって日常生活が成立しているような状況です。</p> <p>そのため、判断能力に要支援課題が生じ契約行為を行うことができなくなった場合、日常生活に困難やトラブルが生じ、重大な不利益を被ることになってしまいます。</p>			
目的 (何のために)	<p>判断能力に要支援課題が生じた人の自立生活の実現に向けた対応として、日常生活自立支援事業や成年後見制度を有機的につなげたシステムを構築するとともに、地域住民の参画・協働を受けながら総合的な支援体制を構築するものです。</p> <p>また、地域での生活を身近な市民が支える市民後見人育成するため、市民後見人養成講座を実施します。</p>			
対象 (誰・何を対象に)	市民全般			
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	<ul style="list-style-type: none"> ●成年後見制度利用相談事業 <ul style="list-style-type: none"> ・職員の専門性と倫理観を高め、多様な相談ニーズに対応できるよう研修等を通してスキルアップを図る。 ・関係機関と情報共有や意見交換を行い、連携・協力しながら適切な利用を支援する。 ●成年後見制度啓発事業 <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関へのパンフレットの設置や広報誌や社会福祉協議会ホームページ上へ掲載し、広報啓発活動を努める。 ・権利擁護に関するしくみや制度の講演会を実施する。 ●日常生活自立支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ・福祉サービス利用援助、日常的金銭管理について、相談・助言しながら自立した生活を送れるように生活支援員や関係機関と連携を密にしながら支援する。 ●成年後見制度法人後見受任事業 <ul style="list-style-type: none"> ・法定後見開始の審判を受けた被後見人等に対する身上監護及び財産管理を適切に遂行する。 ●取手市市民後見人養成講座の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度開催した「市民後見のあり方に関する検討委員会」の意見に基づき、市民後見人の養成講座を開催する。 			
平成30年度 の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ●成年後見制度利用相談事業 <ul style="list-style-type: none"> ・相談援助件数 137件 (平成30年12月末現在) ●成年後見制度啓発事業 <ul style="list-style-type: none"> ・各地域包括支援センター等の関係機関にパンフレットを配布。 ・民生委員協議会研修、ボランティア自主研修にて成年後見制度及び日常生活自立支援事業の制度説明を実施。 ・成年後見制度に関する講演会を2月9日(土)に実施予定。 ●日常生活自立支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ・契約者 32名 (平成30年12月末現在) ●成年後見制度法人後見受任事業 <ul style="list-style-type: none"> ・現受任件数 9件 ●取手市市民後見人養成講座を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・11/10.17.24.12/1及び実習の全5日間の養成講座を開講し、36名が受講し、全て講座を受講した32名の者に修了証を交付した。 ・その内10名程度の受講者がNPO法人とりで市民後見の会のサポート会員となる。 			

進行 管理			成果状況に対する説明	
	成果 状況	4月～ 3月	4	
				毎年、相談件数及び受任件数は増加している状況である。 今年度は、市民が市民を支える市民後見人養成講座を開講し、大勢の方が受講していただき、権利擁護の推進と地域で支える仕組みづくりの基礎となることができ、NPO法人とりで市民後見の会との連携を深めることができた。
	課題			
				日常生活自立支援事業及び成年後見制度を必要としている市民が増加しており、当事者に複雑な課題があるニーズや当事者の家族や周辺のニーズも複雑な課題が付随しているケースも増えている。 養成した市民後見人のフォローを今後どのように進めていくか関係機関と検討が必要となってくる。
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
				①包括的な権利擁護相談・支援機能の充実 ⇒権利擁護に関する包括的な相談・支援機能を確立するため、弁護士、司法書士等法律専門家との連携体制を整備するとともに、成年後見制度の利用者支援はもとより、申立支援や親族後見人への支援の充実を図る必要がある。 ②市民後見人の活用 ⇒権利擁護の必要性を理解した市民を増やし、地域ぐるみで市民の一人一人の権利を守る土壌を作るため、関係機関と連携を取りながら、多岐にわたり市民後見人を活用していく。
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
				関係各機関等の連携体制（権利擁護ネットワーク）の構築 ⇒高齢者や障がいを持つ方を支援する各事業所など市民の権利擁護を実践している関係各機関は、困難な事案への対応や福祉のまちづくりに向けた連携体制（権利擁護ネットワーク）を構築する。また、これらの連携によって利用促進法の中核機関と一躍を担うことが必要になってくると考えられる。
			今後の方向性の説明	
期間				
31年4月 ～ 32年3月	行政や関係機関、住民組織等と連携することによって、当事者の多種の複合的な課題に対応する総合的な支援の体制づくりを進めていく必要がある。これまで築いてきた地域福祉の推進に向けたネットワークをさらに強化し、それらを活かした支援を行うことが一層求められると思われる。			
年 月 ～ 年 月				
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
			第二次地域福祉活動計画も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。	

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成30年度	
実施項目名	生活困窮者自立相談支援事業（取手市委託）	担当係		生活支援係
		担当者	職名	主幹
事業開始年度	平成27年度		氏名	菊地裕之
根拠法令等	生活困窮者自立支援法（平成25年法律第105号）			
プランにおける該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう——福祉サービスの充実	
	行動計画	②	一人で抱え込まないための相談支援活動の充実	
現状と課題	<p>生活困窮者自立相談支援事業は、生活困窮者が困窮した生活から自立することを目的としている。生活は困窮しているが、どこへ相談したらよいかわからない、問題解決のための情報を持っていないなどの状況にある者が、その生活上の課題を解決するときのひとつの手段として、生活困窮者自立相談支援事業を利用することができる。しかし、相談内容がさまざまであるため、相談者の問題解決が当事業機関の相談だけでは難しい場合があり、地域の他の機関との連携による問題解決をおこなっていく必要がある。また、相談者のなかには所得が不十分なために困窮している者や障害により就労が困難な者がいる。ハローワークでは生活保護等自立就労支援として市への巡回相談も実施しており、当相談事業を窓口とした生活保護等自立就労支援の活用による経済的困窮等の解決も可能である。</p> <p>また、子どもの将来が生まれ育った環境の影響を受けることが多く、子どもの貧困対策は重要である。生活困窮者自立支援法においても学習支援事業を任意事業として位置づけている。社会福祉協議会では市より委託を受けて、平成28年度より学習支援事業を実施しており、今年度も継続して困窮世帯の子どもの学習の機会と居場所作りを取り組んでいく。</p>			
目的（何のために）	<p>相談支援では相談内容が多岐にわたるため、相談者の課題に早期かつ包括的に対応するために他機関との連携や知識の取得が必要となる。また、障害者への就労支援についても、関係機関と連携を図り、柔軟に対応できるような体制づくりに取り組み、自立支援を図っていく。学習支援事業が28年度より始まり、こども達の学習の向上と居場所の場となるよう環境づくりが求められる。学習支援アドバイザーを継続的に確保するとともに、関係機関と連携を図り、対象世帯へのアプローチも検討しながら、アドバイザーと共に良い支援を子どもに提供する必要がある。</p>			
対象（誰・何を対象に）	相談者			
事業・業務の具体的内容等（何をいつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど）	<ul style="list-style-type: none"> ・多岐にわたる相談対応のためのOJT研修やSDS等を通じて職員の知識習得や資質の向上。 ・ハローワークの生活保護等自立就労支援事業を利用する相談者を年間20人以上とする。（昨年利用件数は13件） ・障害者における就労支援についても重点的に取り組み、一般就労者を年間6名以上とする。（昨年一般就労者数は3名） ・学習支援事業を継続的に実施していき居場所づくりの定着化を図るため、対象世帯へのアプローチやレクリエーション等でコミュニケーションを図り、利用者へのサポートを強化する。（年3回レクリエーション開催、年2回アドバイザー会議） 			
平成30年度の実施状況	<p>多様化する相談対応のため、全国社会福祉協議会や関係機関が主催する相談支援員研修に参加し、知識習得とともに、他機関での対応方法などの情報共有も行った。</p> <p>また、生活保護等自立就労支援事業など利用してプランを作成した相談者が、12月末時点で16人となっている。障害者等における就労支援においても重点的に取り組み、ハローワークへの同行支援や就労相談により12月末時点で3名（障害者雇用枠1名を含む）が就労となった。</p> <p>学習支援事業は、基本的に毎週1回実施をした。アドバイザーとの会議は、定期的に話し合う機会を設け、現状に合わせ対応を行った。レクリエーションについては3月に実施予定である。</p>			

進行 管理	成果 状況	成果状況に対する説明	
		4月～ 3月	3
		<p>多様化する相談に対応するため、生活困窮者相談支援事業所を対象とした人材養成研修などを受講し、資質向上に努めた。また、全国各地の関係機関と意見交換などを行い情報共有や地域の特性にあった支援方法などを学ぶとともに連携も図った。</p> <p>生活保護等自立就労支援事業など利用してのプランを作成した相談者が12月末時点で、昨年度12名に対して、今年度16名となっている。また、プラン作成者の中で、ハローワーク等への同行支援や就労相談により就労に至った方は、12月末時点で昨年度1名に対して、今年度3名が就労となった（障害者雇用枠1名を含む）</p> <p>学習支援事業は、基本的に毎週1回実施をした。利用者がやりたい教科を自己学習し、アドバイザーに個別指導を求める方法で実施した。定期的なアドバイザーと話し合いを実施し、利用者にあった学習支援方法を検討・実施した。</p>	
	課題		
	<p>多様化する相談内容に対して他の支援機関と積極的に関わり、対応できる体制づくりを強化する必要がある。障害者への就労支援についても関係機関と連携を図り、柔軟に対応できるように取り組み、相談窓口の周知に努める必要がある。</p> <p>学習支援事業は、学力向上とともに居場所となれる環境づくりを図るため、学習支援アドバイザーの確保と支援体制の強化を図る必要がある。</p>		
	課題解決のための改善内容・取り組み方針		
	<p>相談支援では、研修などを通じて職員の資質向上を図るとともに、他の支援機関との連携を強化して対応力の向上を図る。障害者への就労支援においても同様に体制の強化を図る。</p> <p>学習支援事業については、関係機関やアドバイザーと定期的な情報共有を行い、有効な支援を検討していく。</p>		
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)		
	<p>取手市役所関係各課やハローワーク等の関係機関と連携を図りながら、多様化する相談内容に対して柔軟に対応できる体制づくりに取り組んでいる。</p>		
	期間		今後の方向性の説明
31年4月 ～ 32年3月		<p>相談支援では研修などを通じて相談支援員の質の向上に努め、他機関との連携を図る。また、障害者に対する就労支援においても関係機関と連携を図り、柔軟に対応する。</p> <p>学習支援事業では、アドバイザーと定期的な話し合いをすることで、利用者に対して有効な支援方法を提供する環境づくりを実施する。</p>	
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			
<p>第二次地域福祉活動計画も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。</p>			

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成30年度
実施項目名	見守りの輪作り	担当係	藤代支所
		担当者	職名 係長
事業開始年度	平成26年度	氏名	五十嵐玉枝
根拠法令等			
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実
	行動計画	②	みんなで守る意識を高めます
現状と課題	<p>旧藤代地区も住民の関係が希薄になっており、何もサービスや事業が入っていない認知症の方の徘徊などが問題になっていましたが、地域包括支援センターなごみの郷の細やかな訪問や、民生委員児童委員さん、市政協力員さん、区長さんなど、地域に密着した活動をして下さっているのが、防災無線で放送されることも少なくなりました。</p> <p>しかし、引きこもりがちの方や認知症の方を在宅で見られている家族の方で、地域包括支援センターや福祉制度・福祉事業を知らない方がまだまだ多いと感じます。</p>		
目的 (何のために)	<p>認知症の徘徊の方の早い発見や、虐待などの発見、孤独死の防止</p> <p>孤独な高齢者の方を減らす。</p>		
対象 (誰・何を対象に)	市民全般（藤代地区）		
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させたいのかなど)	<p>引き続き藤代地区において、地域包括支援センターなごみの郷、民生委員・児童委員の方々などと情報の共有をしていく。</p> <p>藤代地区で認知症や虐待についての勉強会・研修会などを開催し、ボランティア登録をしていただき、パトロールや訪問などを行ってもらえるようにする。</p> <p>ふれあいサロンの増設</p>		
平成30年度 の実施状況	<p>地域包括支援センター藤代なごみの郷との情報交換、共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月、10月のフリーマーケット開催時になごみの郷さんに参加していただき、来場者の血圧測定や相談にのっていただいた。 ・在宅福祉サービス協力会員定例会に出席していただき、認知症の方の対応の仕方や、会員の地域の情報を聞き、調査をしてくださった。 ・民生委員さん、ボランティアさんからの情報をつないだ。 ・認知症が疑われる方の家に訪問していただいた。 		

進行管理	成果状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月 ~3月	3	<p>情報を関係機関につなぐ状態で、藤代支所として協力者や一時保護拠点を増やせなかったが、地域包括支援センター「なごみの郷」との連携は取れているので、何かあったらどこかがすぐ訪問してくださったり、徘徊の対応、発見は早くなっていると感じる。</p> <p>また居宅介護支援事業所、訪問介護事業所も同じ藤代庁舎内になって定着してきたので、お客様の介護や高齢者、障害者の相談に対応してもらっている。</p>	
	課題				
	<p>協力者の増。 認知症の方を受け入れてくれるふれあいサロンなどの増。</p>				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	<p>認知症講座、カフェ、ふれあいサロンなどの紹介。 介護家族の会と協力しての交流会などの企画。</p>				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	<p>地域包括支援センター、高齢福祉課、ヘルパー事業所、民生委員、介護家族の会、ボランティア等との情報共有。講座や研修等への協力、参加、情報発信。</p>				
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明		
		31年4月 ~ 32年3月	<p>家に引きこもりがちな高齢者の情報をいただき、ふれあいサロン等に参加してもらえよう働きかけていく。</p>		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
<p>第二次地域福祉活動計画も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。</p>					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成30年度
実施項目名	発達相談事業	担当係		取手市立こども発達センター
		担当者	職名	児童発達支援管理責任者
事業開始年度	平成26年度		氏名	宮崎江美子
根拠法令等	児童福祉法			
プランにおける該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう——福祉サービスの充実	
	行動計画	②	ニーズを早く解決する仕組みをつくります	
現状と課題	<p>■現状：センターを利用するための相談や幼稚園・保育所（園）・就学前の相談について、センター所属の相談員である社会福祉士や小児科医、保育士、作業療法士、心理士等が対応している。必要に応じて、医療や病院の紹介を行っている。また、子育てについて等あらゆる相談に対して支援を行っている。</p> <p>■課題：対応する相談員は、より豊かな知識と専門的な知識を身につける必要がある。それにより保護者からの信頼を得て、子育てに自信が持てるよう、その環境を整えていかねばならない。</p>			
目的（何のために）	■当センターに関係するお子様が保護者の適切な管理の下、充実した生活を送り、将来に向けて十分な療育が受けらることを目的とする。			
対象（誰・何を対象に）	■市内在住で当センターに関係するお子様とその保護者を対象としている。			
事業・業務の具体的内容等（何をいつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど）	<p>■事業の内容については、上記現状のとおり、職員が窓口となり相談支援の体制をとっている。相談の内容に応じ、市教育委員会、障害福祉課、子育て支援課、保健センター等福祉関係部所、病院、学校等の関係各所と連携を取り対応していく。</p> <p>■平成27年度11月から発達障害に詳しい小児科医を招いて隔月（奇数月）において医療を開始した。平成30年度は毎月、医療相談を行い相談者の要望に応じその数値目標を年間18件以上とする。</p> <p>■上記課題に挙げた保護者支援については、当センターの心理士が中心となり、発達に心配のあるお子さんの子育ての相談（ペアレントトレーニング）を働きかけていく。</p> <p>■発達相談事業については、保護者のメンタルケアを含めこども発達センター運営の重要な部分を占めている。事業所内の相談を積極的に行い、保育所、学校等との連携を深めていく。</p>			
平成30年度の実施状況	相談の種類	担当者	相談内容及び件数	
	受理面接	市障害福祉課職員 発達センター相談員	4月～12月72件、1月6件予定、2月～3月調整中。 保健センターで行う健診において、発達がゆっくりなお子様 に保健師より発達センターの紹介を受けたり、幼稚園などの 集団生活で支援が必要なお子様が担任の先生から紹介され 面接を実施。その後、お子さんに必要な療育指導に繋げて いく。	
	発達相談	発達センター相談員	4月～12月182件実施。生活面、療育手帳取得等について 対応。	
	医療相談	発達センター小児科医	隔月実施。平成31年3月まで予約を受け25件対応。	
	就学相談	発達センター相談員	年長児79名中59件相談済。教育委員会へ引き継いだ。	
	家庭連携	発達センター職員 保育士、相談員 作業療法士、心理士	4月～12月37件 お子様の通う幼稚園、保育所（園）などの集団生活の様子 を観察し、保護者へ報告をするサービス。必要に応じて支 援者会議を設け情報の共有を行う。支援者会議は18件実 施。	
	ペアレント トレーニング	市子育て支援課職員 発達センター心理士	9月～11月（セッション6回）実施。9名の保護者が参 加。お母さん方のお子さんへの関わり方についてアドバイ スする。	
	その他	発達センター相談員	小学生7件。市障害福祉課や教育委員会へ引き継いだ。	
	<p>※ダウン症のお子さんを持つ親の会「たんぼぼの会」の集いを隔月で実施。（6回/年） 親の会で活動案内パンフレットを作成し、ウエルネスにてご希望の方にご案内して頂くよ う依頼。OGの先輩お母さんを招き、育児や就学のアドバイスを頂く機会を設けた。</p>			

進行管理	成果状況	成果状況に対する説明	
		4月～3月	4 ■随時、事業所内において相談に応じた。多様化する保護者のニーズに対応できるよう、相談員の研修参加を積極的に実施した。更に、当センターの心理指導員によるペアレントトレーニングを行い母支援の充実を目指した。保護者のメンタルケアを含むアフターフォローも心がけながら、相談支援の充実を図った。療育指導が切れ目なく行えるよう、関係機関との連携を行った。
	課題		
	①受理面談が流れ良く進む職員体制を検討し、サービス提供までに時間が掛からないようにする。 ②当センターを終結となった場合のフォローアップについて。		
	課題解決のための改善内容・取り組み方針		
	①市障害福祉課職員、社会福祉協議会相談員、児童発達支援管理責任者、専門職員、相談員等において、お子さん一人ひとりに必要な指導を話し合いサービス提供を行っている。指導のスタートが流れ良く進むよう、受給者証の発行までの流れを再検討する。 ②療育指導の中での目標達成となり当センターを終結となった場合には、民間事業所のご案内や保育所等訪問支援事業を進めフォローアップを行う。		
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)		
	■市教育委員会、子育て支援課、保健センター、障害福祉課等の関係機関との連絡を密にし、情報を共有しながら相談支援から療育指導に繋がるように進めていく。		
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明
		30年4月～30年9月	■毎月1回、市障害福祉課との連絡会を実施し、当センターの状況確認を行う。 ■お子様の日常生活での心配ごとや療育に関することなど、保護者の相談に丁寧に対応しペアレントトレーニングの案内をする。
	30年10月～31年3月	■前期同様の方向性。 ■療育指導終了後のフォローアップとして、民間事業所や当センターの保育所等支援事業の充実を図る。	
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			
第二次地域福祉活動計画も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。			

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成30年度		
実施項目名	愛の定期便活動を通しての見守りネットワークづくり		担当係	取手ヘルパーステーション	
			担当者	職名	管理者
事業開始年度	平成26年度			氏名	中嶋真紀江
根拠法令等					
プランにおける該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実		
	行動計画	②	見守り助け合いネットワークづくり努めます。		
現状と課題	<p>少子高齢化や核家族化が進行し、独居の方や高齢者世帯の方が多くなっています。近隣関係が希薄になってきており、孤独死の増加が懸念されます。取手市社会福祉協議会では、取手市からの委託事業である「取手市ひとり暮らし高齢者「愛の定期便」事業」を行っています。市が指定するひとり暮らし高齢者宅を訪問し、乳酸飲料を配布して安否の確認をしています。申請された方への事業の為、介護や人との関わりを拒否される方への安否確認を今後どのようにしていくか、まだ利用されていない方をどのように増やしていくのかが課題になっています。</p>				
目的 (何のために)	<p>愛の定期便事業を通して、利用者の健康の保持及び孤独感の解消を図り、ひとり暮らし高齢者の福祉の増進に資することや、利用者以外の方でも異変等を早期に発見する事ができ、迅速に対応できるような地域の状況把握、ネットワークづくりを目的とする。</p>				
対象 (誰・何を対象に)	<p>取手市在住のひとり暮らし高齢者の方を対象とする。</p>				
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	<ul style="list-style-type: none"> ・乳酸飲料（ヤクルト）を配布しながら、安否確認を行う。 月曜、水曜⇒ヤクルトさん（井野センター、戸頭センター） 金曜⇒取手市社会福祉協議会 ・愛の定期便訪問時に本人の健康状態を観察し、不安や心配な事を傾聴しながら、健康状態を観察し、近所の方などの異変や気になる事なども情報収集できるような関係を作っていく。また、訪問時に高齢者に係る事件等の情報提供を行い、注意を呼びかけるようにしていく。 ・訪問先のご近所の方にも積極的に挨拶や声かけを行い、訪問活動をしている際に徘徊等の異変を感じたら早期に対応できるようにしていく。 ・ヤクルトさんや社協での見守りだけでは不十分の為、地域住民、民生委員さん、包括支援センター、高齢福祉課やボランティアの方とも連携をとりながら、愛の定期便事業を通して、地域住民同士で見守りができるようなネットワーク構築を目指していく。 				
平成30年度 の実施状況	<p>6月に、利用者の知人から、「本人の通院に付き添ったが、このあとどうしたらいいかわからない。」と連絡があった。高齢福祉課、地域包括支援センター緑寿荘へ報告し、本人は、急性胃腸炎とのことで入院となる。今後は、地域包括支援センターのほうで関わることとなる。又、10月に、ヤクルトさんから「利用者宅に訪問したところ、玄関で転倒し、座り込んで動かない。」と連絡があり、高齢福祉課、地域包括支援センターさらの杜へ報告する。地域包括支援センターが訪問予定だったが、近所の方が本人を説得し、救急搬送で、病院に入院となる。又、12月に、利用者で、耳が遠く、補聴器を付け忘れることが多く、訪問しても確認がとりにくい方がいたので、高齢福祉課、地域包括支援センターはあとびあへ相談し、家族と連絡をとって、介護保険や、緊急システムなど説明してもらったこともあった。愛の定期便活動中に、本人の様子を観察し、本人又は、近所での異変等に気がついた時は、高齢福祉課、地域包括支援センターに報告し、緊急連絡先などに連絡したり、必要な対応をお願いすることができた。ヤクルトさんとヘルパーとの連携を更に密にすることで、情報収集を行い、必要があれば、関係機関に連絡を取ることはできている。</p>				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月～ 3月	3	愛の定期便活動を通して、利用者以外にも声かけや挨拶を行い、本人の話を傾聴することで、情報収集ができ、緊急性があれば、高齢福祉課や地域包括支援センターへ報告し、その後の対応をお願いした。本人の友人や近所の工事関係者の方まで、情報収集ができ、その後の対応の参考になることまで、声をかけられることもあった。	
	課題				
	独居の高齢者世帯が増加し、認知症の方もますます増加する中で、愛の定期便活動だけでは、見守りが不十分である。必要な関係機関との連携は図れているが、更に充実したネットワークを構築する為に、社会資源を活用し、他職種や専門機関との協力や、住民同士の見守り意識を高めていく必要がある。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	愛の定期便活動を地域住民の方へ周知してもらえるように、今後も積極的に活動を行う必要がある。活動を通じて、更なる情報収集をする為に、「気づき」の視点を持てるように職員の専門性を高めていくようにする。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	今後も、愛の定期便実施機関である取手市役所高齢福祉課を中心に、ヤクルトさんや地域包括支援センターと連携を取りながら、地域での見守りを強化できるようにしていく。				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		31年4月 ～ 32年3月	訪問先以外でも、地域住民への挨拶や声かけを積極的に行い、異変等に気がついた時は、適切な関係機関へつなぐことができるよう、職員の専門性を高めていく。		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
第二次地域福祉活動計画も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成30年度
実施項目名	赤い羽根共同募金運動 街頭募金	担当係	藤代支所
		担当者	職名 係長 氏名 五十嵐玉枝
事業開始年度	平成26年度		
根拠法令等			
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実
	行動計画	③	魅力あるイベントを開催します
現状と課題	<p>10月に赤い羽根共同募金運動を展開していますが、募金額が減少しており、共同募金運動を理解していただくために、PRも兼ねて街頭募金・イベント募金を実施しています。</p> <p>市内のスーパーマーケット、ボランティアさん、学校等の協力をいただき実施していますが、新規協力団体（ボランティア団体）とスーパーマーケットなどの協力店を開拓します。</p> <p>赤い羽根フリーマーケット時（10月）は障害者福祉センターふじしろ、つつじ園、地域包括支援センターなごみの郷等の参加、出店協力を得ながら、来場者数増に努めます。</p>		
目的 (何のために)	赤い羽根共同募金のPRと、理解を得るため、また市民の交流の場作りのため実施		
対象 (誰・何を対象に)	市民全般		
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	街頭募金・イベント募金等予定		
	<p>赤い羽根フリーマーケットの実施</p> <p>10月の土曜日で予定（荒天順延）、1区画500円（50～60店募集）</p> <p>新規スーパーマーケット開拓（協力：取手地域女性団体連絡会）</p> <p>ヤオコー藤代店・取手店（協力：市内高校生、ボランティア団体）</p> <p>マスダ戸頭店（協力：ボーイスカウト取手3）</p> <p>とりで産業まつり（昭和産業株式会社）</p> <p>今年度も協力者には、助成金を配分しているボランティア団体等に声をかけ、協力をいただく。</p> <p>また、つつじ園まつり、福祉まつり～笑顔のひろば～、ネットワークフェアなどの大勢の人が集まる場所でのイベント募金も実施。</p>		
平成30年度 の実施状況	<p>10月20日（土）実施</p> <p>47区画 出店（出店料23,500円は赤い羽根共同募金に寄付）、募金箱 2,125円</p> <p>まだ定着していないせいか、4月実施時より、出店区画・来場者とも少ない。</p> <p>その他の街頭募金・イベント募金実施状況</p> <p>10月1日 JR取手駅等5駅とマスダ戸頭店（協力：取手地域女性団体連絡会）57,219円</p> <p>10月6日 ヤオコー藤代店・青柳店（協力：かざぐるま、井野むつみ会、紫水高、取手二高）63,874円</p> <p>10月21日 つつじ園まつり（5,370円）</p> <p>10月 いこいの場（7,385円）</p> <p>10月27日 第4回福祉まつり～笑顔のひろば～（3,784円）</p> <p>11月3日 マスダ戸頭店、ヤオコー戸頭店（協力：ボーイスカウト取手第3団・28,886円）</p> <p>11月3、4日 とりで産業祭（協力：昭和産業株式会社・25,471円）</p> <p>11月17日 ネットワークフェア 13,090円</p> <p>11月23日 第2回ハーベストマーケット5,249円</p>		

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		10月～ 3月	3	赤い羽根フリーマーケットや街頭募金は定着してきつつあり、募金に対する理解も深まってきたように感じる。（苦情が少なくなった。）	
	課題				
	天候に左右される。 秋は他でもフリーマーケットやバザーが行われるので、出店者が分散する。（出店者の確保）				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	引き続き広報とりでやホームページ、フェイスブックなどで、情報を提供していく。 来場者が楽しめるイベントを企画する。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	各事業所の利用者さん、家族の方にも出店や来場を呼びかける。 ポスターを印刷して学校や企業などにも掲示していただく。				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		31年8月 ～ 31年10月	ちらしやポスターの配布、掲示依頼。 会議やイベントなどで呼びかける。		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
第二次地域福祉活動計画も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成30年度			
実施項目名	ボランティアの受け入れについて			担当係		つつじ園	
				担当者	職名		係長
事業開始年度	平成26年度				氏名		寺田 一恵
根拠法令等							
プランにおける該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう 福祉サービスの充実				
	行動計画	③-(4)	福祉施設との交流の機会を増やします。				
現状と課題		<p>これまでの数年間で、ボランティアの受け入れを施設としても重点的な課題として取り組んできました。地域のボランティアや民生委員さん、市内ボランティア団体の皆様が活動をしていただいています。しかしながら、ボランティアの固定化、高齢化は進んでいます。今年度につきましては、新たな取り組みを通して、新規のボランティアの開拓及び、ボランティアポイントカードの運用による活動の活性化に取り組めます。</p>					
目的 (何のために)		利用者との市民の交流の場や来るべき共生社会に向けた取り組みとしてふれあいの機会を増やします。					
対象 (誰・何を対象に)		つつじ園利用者、職員がボランティア希望者を対象とします。					
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで に・どのレベル まで達成させたい のかなど)		<p>これまで同様広くボランティアを募集し作業、散歩等を通してボランティア活動に取り組んでいただくことで、つつじ園利用者とふれあえる時間を作っていただきたい。その活動の中で、障害を持つ方々への理解を深めていただき、これからの共生社会への取り組みの一つとしたい。</p> <p>具体的な取り組みとして、通常日課の作業や散歩等への参加やボランティア交流会、つつじ園まつりなどの行事に参加していただき、地域の皆様にも広く気軽に集まることができる場の提供をします。</p> <p>今年度については、「ボラビ1DAYチャレンジ」と称して、市内在住、在勤者の方々を対象として、社会人の皆様が気軽に参加できるボランティア体験企画に取り組み、さらにボランティアポイントカードを利用した季節ごとの魅力的なキャンペーンを実施し、ボランティア数の増加を目指します。</p> <p>期間：平成30年4月1日～平成31年3月31日の通年 目標：新規ボランティア5名獲得</p>					
平成30年度 の実施状況		<p>今年度は「ボラビ1DAYチャレンジ」～1日だけちょっとボランティアしてみませんか？～と初めて実施をした。</p> <p>6月1日～12月28日まで期間を設け、市内在住、在勤の方々を対象とした企画をし、市内企業4社及び小・中・高校へチラシ配布及びポスター掲示や広報等で広く呼びかけを行った。期間中に3名の方の応募があり参加をいただいた。</p> <p>その他、現在つつじ園に関わっていただいているボランティアの皆様には、ボラビカードを用いてボラビポイントUPキャンペーンを企画したり、職員一人ひとりがボランティアの皆様への感謝の気持ちを持ちながら対応できるよう努めた。また、11月には第4回ボランティア交流会を実施し、35名の参加があり、つつじ園利用者の皆さん及びボランティアの皆様と交流し楽しい時間を共有することができた。</p>					

進行 管理	成果状況評価		成果状況に対する説明
	成果状況	4月～ 3月	4
	<p>今年度初めての取り組み「ボラビ1DAYチャレンジ」を実施し、12月末の段階で目標の8割である新規ボランティア4名のご参加をいただいている。参加いただいている活動も散歩や軽作業、つつじ園まつりなど幅広く、桑の実ジャムのへた取り作業については、収穫時期になるとご自身でボランティア参加の連絡をいただけるようになった。</p> <p>各職員へのボランティアの皆様への感謝の気持ちを持ち対応できるよう意識づけを行うことにより継続して参加していただくことにつながったといえる。今年つつじ園ボランティア参加延べ人数は、1227名（H30年12月現在）となっている。</p> <p>【新規ボランティア】4名獲得（H30年12月現在）</p>		
	課題		
	<p>社会人を対象とした「ボラビ1DAYチャレンジ」について、気軽に参加していただけるよう、宣伝方法等に工夫が必要と思われます。</p>		
	課題解決のための改善内容・取り組み方針		
	<p>市内企業や小・中・高校へのポスター掲示・チラシ配布、広報等への掲載等を継続すると共に、市役所、商工会等幅広く呼びかけが必要と思われます。</p> <p>ボランティアの継続的な受入には、ボラビカードを活用し、新しい企画を検討し取り組みたいと思います。</p>		
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)		
	<p>ボランティア支援センター、地域の民生委員、ボランティア団体等との連携を今後もより一層強くしていきたいと思われます。</p>		
	今後の方向性	期間	31年4月～
<p>31年度も「ボラビカード」の活用を軸にボランティア参加者の増加をめざします。これまで参加していただいている皆様や新規に参加していただいたボランティアの皆様へ継続して参加していただけるよう、イベントやキャンペーンを工夫し、利用者との交流の機会を増やし、地域のボランティアの拠点となるべく努めていきます。</p>			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			
<p>第二次地域福祉活動計画も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。</p>			

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成30年度		
実施項目名	地域イベントへの参加		担当係		障害者福祉センターふじしろ
			担当者	職名	係長
事業開始年度	平成27年度			氏名	濱田正之
根拠法令等					
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実		
	行動計画	③-(2)	魅力あるイベントを開催します。		
現状と課題	<p>これまで様々な地域イベントへ参加をしていますが、毎年恒例の決められたイベントへの参加を行っていたため、参加側も受け入れ側もマンネリ化しているところがあります。新たなイベントへの参加や既存のイベントをより魅力あるものにリニューアルしていくことで地域社会との新たなつながりを構築していくことが課題になると思われまます。</p>				
目的 (何のために)	<p>イベントへの参加を通じて地域社会との繋がりを強め、利用者の地域社会への参加、地域住民の福祉活動参加へのきっかけを作ることを目指します。</p>				
対象 (誰・何を対象に)	<p>福祉センターふじしろ利用者と職員が地域社会を対象に活動します。</p>				
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた いのかなど)	<p>地域イベントへの参加 4月 さくら荘まつり、ふじしろ図書館まつり 5月 赤い羽根ふれあいフリーマーケット 7月 買ってNetバザール 9月 あげぼのまつり、藤代商工会まつり 10月 赤い羽根ふれあいフリーマーケット 11月 ふじしろハーベストマーケットの開催、福祉まつり ネットワークフェア、光風台自治会まつり 2月 取手ひなまつり</p> <p>その他、地域の各種イベントの参加を検討する中で、その活動内容に際しては今までの販売中心のものから地域社会とのふれあいの機会があるものも実施していきたいと考えています。</p>				
平成30年度 の実施状況	<p>・ 予定されていた地域のイベントの中で内容を精査しながら参加しました。あわせて新規のイベントについての参加も検討、実施。(ハートウェルフェア、さくら荘収穫祭、ゆめ国体販売など) 来場者や関係者のみなさんと利用者さんが触れ合う機会を多く設けました。</p> <p>・ 11月23日(金)「第2回ふじしろハーベストマーケット」開催、600人の来場があり地域の皆さんと楽しい時間を過ごすことが出来ました。</p>				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明
		4月～ 3月	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害福祉センターふじしろ主催となった地域交流福祉イベント「ふじしろハーベストマーケット」を開催。 近隣福祉施設を中心とした参加協力団体も増加し、当日来場者約600人と2回目開催としてかなりの集客もあり予想を上回る結果となった。 来場者は高齢者から、小中学生、子供連れなど幅広い年齢層が集まり、食を中心とした露店やワークショップを楽しんでいた。
	課題			
	センターふじしろ主催となるイベントを無事開催することができたが、新たな課題も出てきたので、次年度へ向けて改善が必要と思われます。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	今年度の反省をふまえ行動計画、工程表の見直しを行い、開催へ向けたスケジュールの調整を早めに行います。 地域交流、地域福祉促進を目的としたイベントとして更に魅力的にすべく、参加団体、催し物の企画を再度検討します。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		31年4月 ～ 32年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存イベントへの参加精査。 ・ 第3回ふじしろハーベストマーケット開催へ向けた企画、立案、実施。 	
	取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			
第二次地域福祉活動計画も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成30年度	
実施項目名	取手市立保育所との保育交流	担当係		取手市立こども発達センター
		担当者	職名	児童発達支援管理責任者
事業開始年度	平成26年度		氏名	宮崎江美子
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう——福祉サービスの充実	
	行動計画	③	福祉施設との交流の機会を増やします	
現状と課題	<p>■現状：こども発達センター年少・年中・年長の単独通園児が毎月1回、午前中1時間程度、取手市立の保育所（7箇所）の集団活動に参加し交流を行う。保育交流以外にも園庭の開放により、地域との交流を深めていく。</p> <p>■課題：双方の保育士及び指導員間の情報交換の頻度を上げる必要がある。</p>			
目的 (何のために)	■当センターの単独通園児が地域で同年齢の子ども達との集団生活を通し交流することにより対人関係を構築し社会性を身に付けていく。			
対象 (誰・何を対象に)	■当センターの単独通園児と各保育所の子ども達を対象。			
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで に・どのレベル まで達成させたい のかなど)	<p>■上記のとおり当センター単独通園児と取手市立の保育所園児との保育交流を行っている。 【保育交流の流れ】</p> <p style="margin-left: 20px;">～ 9：50 保護者が各保育所に送る</p> <p style="margin-left: 20px;">10：00～11：00 保育所の活動に参加</p> <p style="margin-left: 20px;">11：15 当センター送迎車にて保育交流に参加した保育士、子供の迎え</p> <p style="margin-left: 20px;">11：30～ 当センターに戻り各クラスの通常活動に参加</p> <p>■交流日以外でも同年齢の子ども達と関わりを増やせるように、地域との関係性を築いていく。また、近隣の保育所の園庭を開放して頂き交流を深めていく。</p> <p>■保育交流開始前に各保育所の担当の先生方と活動内容の確認と情報交換を行う。また年度末に行われる保育所長会議に参加し、反省点や受け入れ側の意見を伺う。これ以外にも必要に応じ双方の意見交換を行い、1年を通し事業の充実向上に努めていく。</p>			
平成30年度 の実施状況	<p>■4月10日（火）市内公立保育所（7箇所）へ挨拶訪問実施（センター長対応）</p> <p>■4月25日（水）発達センターにて各保育所の担当保育士と事前連絡会を実施。参加人数や活動内容の確認等を行い、保育士同士の交流を深めた。</p> <p>■5月から保育交流を実施。毎月、事前に電話連絡をして交流日程の確認を行う。</p> <p>■今年度は園庭開放にも多く参加させていただく。</p>			

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月～ 3月	4	<p>■単独通園を利用しているお子さんが毎月1回、定期的に市内の公立保育所との保育交流を行った。地域の同年齢のお子さんに関わることで経験の幅を拡げられた。</p> <p>白山保育所（第3火曜日）：1名 久賀保育所（第1水曜日）：3名 舟山保育所（第3水曜日）：1名 永山保育所（第1木曜日）：1名 中央保育所（第2火曜日）：2名 戸頭北保育所（第2水曜日）：2名 吉田保育所（第4火曜日）：2名</p> <p>※後期（10月～2月）に保育交流以外で、園庭開放に参加し交流を深めた。</p>	
	課題				
	■交流日以外でも地域のお子さんとの交流を拡げる。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	■公立保育所の園庭開放に参加できるよう調整していく。また、保育交流と園庭開放を組み合わせ、同年齢のお子さんとの関わりを拡げる。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	■各保育所と発達センターとの活動や行事などの調整を行いながら親交を深めていく。				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		30年4月 ～ 31年3月	■地域の中で同年齢のお子さんとの触れ合いや、他者とのコミュニケーションの場として活動に参加し、経験を拡げていく。		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
第二次地域福祉活動計画も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成30年度	
実施項目名	高齢者クラブ連合会			担当係	老人福祉センターあけぼの
				担当者	職名
事業開始年度					氏名
根拠法令等	老人福祉法				
プランにおける該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実ー		
	行動計画	③. (1)	ふれあい交流活動への取り組み		
現状と課題	高齢化社会を迎え、高齢者のふれあいの機会を増やす場としての老人福祉センターあけぼのの役割は年々増していると考えます。地域福祉に関する市民意識調査の中でも高齢者の集まれる場が少ないと地域の問題としてもあげられています。現在、この問題の解決策の一つともなりえる高齢者クラブの活動や内容があまり市民に周知されていません。				
目的 (何のために)	健康づくりを進める活動やボランティア活動を通じて、地域を豊かにする各種活動を行います。				
対象 (誰・何を対象に)	市内在住おおむね60歳以上の高齢者。				
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	取手市高齢者クラブ連合会のPR活動として、全体旅行の募集を早くから行います。併せて、取手市高齢者クラブ連合会だよりを年3回目標として各クラブに配布します。今年度は、各クラブの紹介等もたよりに掲載して、各クラブ内でどのような活動が行われているのかクラブ内の周知をして行きます。				
平成30年度 の実施状況	例年だと全体旅行の募集は7月会長会議より実施していましたが、多くの参加者を集う為に今年度は4月より役員打合せを行い5月総会時にチラシ配布をする事ができました。今年度は126名の参加者となりました。今年度は高齢者クラブだよりを、7月と1月の2回発行しました。年3回の目標には届きませんでしたが、今年度から会員全員分を印刷し各クラブに配布を行い活動内容を広く周知しました。37ある単位クラブの内の2つのクラブ代表に原稿を依頼して、各地域でのクラブ活動内容を掲載しました。				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		7月～ 12月	3	全体旅行の打合せは4月～5月まで3回の打合せを早い時期から行い、5月の総会時には各クラブ会長へ周知することができ、今年度も126名と多くの参加が得られました。	
	課題				
	会報については、大会報告等の内容や事務局からの報告等偏ってしまう内容となる為、今後会員からの意見等などの掲載も考えていき内容の充実を図りたいと思います。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	会報は役員会議等にてご意見を頂きながら議題のひとつとし、内容の充実を図ります。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	取手市役所高齢福祉課				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		31年4月 ～ 32年3月	役員会議等にて議題とし、内容の充実や会員の意見を反映させていく。		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
第二次地域福祉活動計画も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成30年度	
実施項目名	高齢者の交流の機会を増やす	担当係		老人福祉センターあけぼの
		担当者	職名	係長
事業開始年度	平成27年		氏名	橋本 睦
根拠法令等	老人福祉法			
プランにおける該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実ー	
	行動計画	③. (2)	魅力あるイベントの開催	
現状と課題	高齢化社会を迎え、高齢者のふれあいの機会を増やす場としての老人福祉センターあけぼのの役割は年々増していると考えます。昨年度は老人福祉センター利用者の数の減少が見られました。			
目的 (何のために)	高齢者が家に閉じこもってしまわないように、老人福祉センターあけぼのが施設として仲介を行い、高齢者の交流の機会を増やすために、魅力あるイベントを開催し、さらには、あけぼのの利用者を増加させることを目的とします。			
対象 (誰・何を対象に)	市内在住60歳以上の高齢者。			
事業・業務の具体的内容等 (何を・いつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	今年度は、利用して頂いている趣味教室の方々を中心としたアンケート調査を実施して、利用者のニーズを聞き出します。来年の3月までには実施します。			
平成30年度の実施状況	7月から職員打合せを行いました。内容に関しては市役所担当課とも調整を行いました。課内会議にて検討の結果、12月にアンケート調査を行う方向性に決定し、12月10日～28日の間にアンケート調査を行いました。			

進行管理	成果状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		12月10日 ～28日	4	窓口にて入浴利用者や来館者及び趣味教室利用者に対してアンケートを配布しました。約300枚のアンケートを回収することが出来ました。	
	課題				
	アンケート回答利用者に偏りが見られました。趣味教室や健康クラブ回答は多数頂きましたが、入浴利用者からのアンケート回収率が低かったです。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	今後、アンケート回答を参考にしながら、利用者の方が利用しやすく快適な施設づくりを行います。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	取手市役所高齢福祉課				
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明		
		31年1月 ～ 32年3月	3月までに集計結果が出せるよう集計を行います。		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
第二次地域福祉活動計画も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成30年度	
実施項目名	高齢者の交流の機会を増やす	担当係		老人福祉センターあけぼの
		担当者	職名	係長
事業開始年度	平成27年		氏名	橋本 睦
根拠法令等	老人福祉法			
プランにおける該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう—福祉サービスの充実—	
	行動計画	③. (2)	魅力あるイベントの開催	
現状と課題	高齢化社会を迎え、高齢者のふれあいの機会を増やす場としての老人福祉センターあけぼのの役割は年々増していると考えます。昨年度、事業実施からわずかつつですが、老人福祉センター利用者の数は増加しつつあり、今後も継続して維持してまいります。			
目的 (何のために)	高齢者が家に閉じこもってしまわないように、老人福祉センターあけぼのが施設として仲介を行い、高齢者の交流の機会を増やすために、魅力あるイベントを開催し、さらには、あけぼのの利用者を増加させることを目的とします。			
対象 (誰・何を対象に)	市内在住60歳以上の高齢者。			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させたい のかなど)	老人センターあけぼの大広間を利用しての一般利用者を対象とした、交流を深めるイベントを3月までに1回行います。引き続き、会員の減少が見られる趣味教室の一日体験も行います。			
平成30年度 の実施状況	<p>一般利用者と趣味教室の交流として4月16日に舞踊・ダンスを行う趣味教室に対してご意見をお聞きしながら、あけぼの初の舞踊・ダンス教室発表会を行いました。「桜の舞」という題名をつけ各教室の代表に挨拶も頂きながら、4月1日号の広報に掲載や館内掲示をし周知を呼びかけた所、当日は102名の参加となりました。</p> <p>そのほかに、職員打合せを行い、高齢者の交流と地域の交流を中心として考え、気軽に楽しく、地域で長く踊られている「取手花笠音頭」と「藤代ふるさと音頭」の交流会を6月の広報に掲載し、7月6日あけぼの大広間にて盆踊り交流会として行い取手花笠音頭は趣味教室の講師に、藤代音頭は高齢者クラブの一つである喜楽会と川辺川寿会に依頼しておこない34名の参加となりました。</p> <p>減少が続いている趣味教室、華道教室の体験教室は、12月行う予定でしたが先生の健康の都合により、実行できませんでした。陶芸体験教室は1月24日に開催11名の参加となります。</p>			

進行管理	成果状況評価		成果状況に対する説明
	成果状況	4月～2月	4
	<p>今年度新規イベントで2つのイベントを開催しました。4月16日に桜の舞を開催、102名の参加者となりました。7月6日に盆踊り交流会を行いました。打合せを6月28日に行い、両首頭の講師の顔合わせと併せて打合せを行いました。当日は34名の方が来所。思いもかけず若い方の参加もあり、交流を深めました。取手地区と藤代地区の交流も深まりました。</p>		
	課題		
	<p>イベント時など、広報掲載や一般利用者にも窓口にて呼びかけを行いました。興味のある方は参加して交流も出来ましたが、男性の参加者が少ないのが残念でした。</p>		
	課題解決のための改善内容・取り組み方針		
	<p>男性・女性を問わないイベントの開催も必要と感じました。</p>		
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)		
	<p>あけぼの趣味教室「演歌ダンス」講師・高齢者クラブ喜楽会と川辺川寿会に依頼協力をお願いし、2回打合せを設け催行することが出来ました。</p>		
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明
31年4月～32年3月		<p>趣味教室と話し合いを持ちながら、今後も体験教室やイベントを行い既存の趣味教室の参加者増加やあけぼの利用者増加につなげていきます。</p>	
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			
<p>第二次地域福祉活動計画も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。</p>			

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成30年度	
実施項目名	ふれあいの機会を増やす「芸能発表会」	担当係		老人福祉センターあけぼの	
		担当者	職名	係長	
事業開始年度			氏名	橋本 睦	
根拠法令等	老人福祉法				
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう—福祉サービスの充実—		
	行動計画	③. (2)	魅力あるイベントの開催		
現状と課題	高齢化社会を迎え、高齢者のふれあいの機会を増やす場としての老人福祉センターあけぼのの役割は年々増していると考えます。しかし、現状では集客数は年々減少しており、昨年のあけぼの趣味教室無料体験のアンケート調査から判りました。				
目的 (何のために)	高齢者が家に閉じこもってしまわないように、老人福祉センターあけぼのが施設として仲介を行い、高齢者の交流の機会を増やすために、魅力あるイベントを開催し、さらには、あけぼのの利用者を増加させることを目的とします。				
対象 (誰・何を対象に)	市内在住60歳以上の高齢者。				
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させたい のかなど)	あけぼの芸能発表会を、より多くの人に知って頂き参加して頂くために、あけぼの祭りのPR活動を昨年度より1ヶ月早い7月より行います。昨年同様、高齢者クラブやいきいき講座生及び関係団体にチラシを配布します。				
平成30年度 の実施状況	今年度は、7月中旬に高齢者クラブ連合会やいきいき講座生に通知を出し、周知を図りました。また、各公民館等に貼り出すポスターも7月に配布して、例年より1ヶ月早く芸能発表会の周知を図りました。9月15日 第一部演芸の部を、9月17日 第二部カラオケの部を開催しました。今年度も協賛を東日本ガス㈱より飲料水を頂き参加者に配布しました。また、今年度はいばらきコープからも出展をして頂きました。市役所担当課との連携により、群馬県みなかみ町の農産物販売とりんご風呂を15日に行う事ができました。また、福祉センターふじしろやつつじ園からも和菓子の販売や焼きそば販売を協力して頂きました。あけぼの趣味教室からは、例年通り陶芸同好会による陶器販売を行いました。				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		7月～ 9月	4	4月にいばらきコープと連絡をとり9月の参加を依頼しました。7月中に関係団体に通知やポスター掲示を行いました。社協広報誌や取手広報紙にも掲載を行いました。	
	課題				
	みなかみ町の農産物販売とリンゴ風呂は9月に急遽決定した為、ポスター掲示等充分にPR活動を行うことが出来なかった。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	来年度も早い時期から関係団体との調整を行い、ポスター等に詳しい内容を掲載して掲示を行います。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	みなかみ町・高齢福祉課・いばらきコープ・東日本ガス・中央タウン音響チーム・つつじ園・福祉センターふじしろ				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		31年7月 ～	関係団体との連絡調整を7月から行っていきます。		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
第二次地域福祉活動計画も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成30年度		
実施項目名	ふれあいの機会を増やす「百人一首大会」		担当係		老人福祉センターあけぼの
			担当者	職名	係長
事業開始年度	平成26年			氏名	橋本 睦
根拠法令等	老人福祉法				
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう—福祉サービスの充実—		
	行動計画	③. (2)	魅力あるイベントの開催		
現状と課題	高齢化社会を迎え、高齢者のふれあいの機会を増やす場としての老人福祉センターあけぼのの役割は年々増していると考えます。しかし、現状では集客数は年々減少しており、昨年のあけぼの趣味教室無料体験のアンケート調査から判りました。				
目的 (何のために)	高齢者が家に閉じこもってしまわないように、老人福祉センターあけぼのが施設として仲介を行い、高齢者の交流の機会を増やすために、魅力あるイベントを開催し、さらには、あけぼのの利用者を増加させることを目的とします。				
対象 (誰・何を対象に)	市内在住60歳以上の高齢者。				
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまでに・どのレベルまで達成させたのかなど)	昨年度は、9月からPR活動を行いましたが、今年度8月からPR活動を行い、前年度よりも多い参加者を目指します。				
平成30年度 の実施状況	今年度は、あけぼの窓口にて8月より百人一首大会のチラシをあけぼの窓口にて配布を始め、ボランティア関係者にも通知を行いました。社協広報誌キュービットや取手広報にも掲載を行い、関係者とも10月5日に打合せを行い、10月29日に開催しました。申込み参加者22名で、昨年参加者と同数でした。今回は参加費を無料として、参加者には景品を配布しました。				

進行 管理	成果状況評価		成果状況に対する説明	
	成果 状況	8月～ 10月	3	例年より早い時期の8月中旬よりチラシを作成して、窓口配布を行いました。 10月29日に開催しました。
	課題			
	初参加者は9名と増えてはいますが、今の方法だと参加人数を増加させる事は難しいと感じました。 また、参加者の高齢化もあり、畳に座れないなど意見もありました。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	参加者にアンケートを配布して、意見を聞いたところ毎年楽しみにしている・来年も続けて欲しいと 意見が寄せられました。他以前には意見として出てこなかった「イス席を増やして欲しい」という意 見がありましたので、今後検討したいと考えます。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	ボランティアの方々			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		32年8月 ～	来年度も早い時期からのPR活動を行います。	
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
第二次地域福祉活動計画も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願い します。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成30年度	
実施項目名	世代間交流	担当係		老人福祉センターあけぼの
		担当者	職名	係長
事業開始年度	平成27年		氏名	橋本 睦
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めようー福祉サービスの充実ー	
	行動計画	③. (3)	ふれあいの機会を増やします。	
現状と課題	高齢化社会を迎え、世代間交流の場が少なくなってきました。老人福祉センターあけぼのは、子供と高齢者のふれあいの場の機会をつくります。			
目的 (何のために)	老人福祉センターあけぼのが施設として仲介を行い、あけぼの利用者と子ども達の交流の場を増やす機会をつくります。			
対象 (誰・何を対象に)	市内在住60歳以上の高齢者と小学生。			
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで にどのレベル まで達成させたいのかなど)	陶芸教室に依頼を行い親子参加型の陶芸教室を9月までに開催し、高齢者と子どものふれあいの機会を増やします。			
平成30年度 の実施状況	広報7月15日号に掲載し募集をしました。8組の参加申し込みがありましたが、台風13号の影響により、関係者間で打合せを行い、9月29日午後に延期決定となりました。他、今年度も取手市消防総務課と打合せを行い、11月2日めぐみ幼稚園児とあけぼの趣味教室との交流会「火災予防運動」を行いました。			

進行 管理	成果 状況	成果状況に対する説明	
		8月～ 11月	3 8月に取手消防本部と連絡をとり、11月開催希望を伝えました。親子陶芸は5月に新役員と打合せを行いました。今年度は平日に行って欲しいと教室側から依頼があり、木曜日開催となりました。
	課題		
	今回の親子陶芸教室は平日と台風による延期で参加者が13名と減ってしまいました。毎回好評のイベントでもあり、平日開催は課題となりました。		
	課題解決のための改善内容・取り組み方針		
	代表者と話し合いの場を持ちながら今後開催曜日を再検討をしていきたいと思えます。		
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)		
	あけぼの陶芸同好会		
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明
		31年4月 ～ 32年3月	2019年度の代表者変更と併せて、打合せを行います。
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			
第二次地域福祉活動計画も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。			

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成30年度
実施項目名	さくら荘 秋の収穫祭&カラオケ大会	担当係	老人福祉センターさくら荘
		担当者	職名 主幹 氏名 後藤 伸二郎
事業開始年度	平成30年度		
根拠法令等	老人福祉法		
プランにおける該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう ― 福祉サービスの充実
	行動計画	③. (2)	魅力あるイベントの開催
現状と課題	高齢者が気軽に通える居場所が少なくなっている中で、ふれあいの機会を増やす場としての老人福祉センターさくら荘の役割はより大きくなってきています。この目的を果たすためには利用者を増加させることを求められています。今年度もさらに利用者の増加を図るため、引き続き魅力あるイベントを開催します。		
目的 (何のために)	高齢者のふれあいの機会を増やすために魅力あるイベントを開催し、さくら荘の利用者をさらに増加させる。		
対象 (誰・何を対象に)	市内在住の60歳以上の高齢者及び一般市民		
事業・業務の具体的内容等 (何をいつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	<ul style="list-style-type: none"> ・さくら荘大広間におけるカラオケ大会を実施（高齢者、市民の方先着40名） ・子供受けするイベント企画 ・模擬店として、カレーライス、焼きそば、フランクフルト、地元新鮮野菜販売 ・コープによる風船配布 ・市内幼稚園児によるアトラクション ※消防防火運動（取手消防予防課）		
平成30年度の実施状況	①模擬店の出店先との連絡は終了。細かい部分の打合せを9月～10月に実施した。 ②カラオケ大会は無料にて実施する。進行は生きがい教室ひまわり会にお願いする。 ③ステージのアトラクションとして、戸頭中学校吹奏楽部の演奏、芸人の出演依頼をする。 ④来場者先着200名に新米プレゼントのイベントを実施する。お米は地元農家より購入。		

進行 管理	成果状況評価		成果状況に対する説明
	成果 状況	4月～ 3月	4
	<p>11月10日（土）10時から15時まで『収穫祭&カラオケ大会』開催 模擬店－6店 ステージ－3団体</p> <p>焼きそば さくら荘売店（ぷりむら） カレーライス コープ守谷 フランクフルト 豚汁 ※来場者数 約850名 初めてのイベントだったが、大勢の来場者が見えた。戸頭中学校吹奏楽部の演奏は手拍子を取る方もいた。カラオケ大会は衣装を着て歌う方もいて観客から拍手や歓声が上がっていた。</p>		
	課題		
	室内は食べる場所があったが、外には座って食べれる場所がなかった。		
	課題解決のための改善内容・取り組み方針		
	テーブルとイスを配置して、外でも安心して食べれる場所を提供していく。		
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアグループ、各種団体との連携。 ・市役所（高齢福祉課、広報広聴課）との連携。 ・つつじ園、福祉センターふじしろとの連携。 ・近隣住民との連携。 		
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明
31年4月 ～ 32年3月		<ul style="list-style-type: none"> ・収穫祭&カラオケ大会（平成31年度開催）ボランティアグループ、各種団体へ依頼と打ち合わせを行う。 ・広報とりで、社協情報誌、フェイスブック、ミニコミ誌などに掲載する。 	
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			
第二次地域福祉活動計画も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。			

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成30年度
実施項目名	さくら荘さくらまつり	担当係	老人福祉センターさくら荘
		担当者	職名 主幹 氏名 後藤 伸二郎
事業開始年度	平成26年度		
根拠法令等	老人福祉法		
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう ― 福祉サービスの充実
	行動計画	③.(2)	魅力あるイベントの開催
現状と課題	高齢者が気軽に通える居場所が少なくなっている中で、ふれあいの機会を増やす場としての老人福祉センターさくら荘の役割はより大きくなってきています。この目的を果たすためには利用者を増加させることを求められています。今年度もさらに利用者の増加を図るため、引き続き魅力あるイベントを開催します。		
目的 (何のために)	高齢者のふれあいの機会を増やすために魅力あるイベントを開催し、さくら荘の利用者をさらに増加させる。		
対象 (誰・何を対象に)	市内在住の60歳以上の高齢者		
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	さくらまつりの活性化。 ①取手市出身やゆかりのある方にイベント出演を依頼する。 ②模擬店等を3月までに1つ増加させる。さくらまつりの来場者の増加に伴い、さくら荘のPR（ポスター、チラシ）を2月から実施してさくら荘の入館者数の増加を目指す。 ③姉妹都市でもある、群馬県みなかみ町「奥平温泉」を取り込み、高齢者や市民の方に疲れた体を癒していただく。 ④さくら荘～ゆめみ野間の無料シャトルバスの運行（30分間隔）		
平成30年度 の実施状況	①取手市出身でものまね芸人（Ryu）の出演により、来場者の増に繋がった。 ②コープ守谷店による試供品配布や下高井朝市のキャラクター「ゆめみん」によるPR活動で賑やかなまつりとなった。 ③ポスターやチラシを各公民館や公共施設に配布した。広報とりで、社協情報誌、キューピット、地域新聞、みんなの情報誌など、地域情報誌の掲載を率先して行った。また、コミュニティバス、常総線沿線各駅（取手～戸頭）にもポスター掲示を行った。 ④群馬県みなかみ町奥平温泉「遊神館」のお風呂。 ⑤さくら荘～ゆめみの駅間の無料シャトルバスの運行。		

進行管理	成果状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月～3月	4	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年と比較して新しい演芸グループ1を追加（ものまね芸人：Ryu） 4月7日（土）10時から15時まで『さくらまつり』開催 模擬店－12店 演芸－5団体 作品展示（書道、絵画、手芸）ダンス大会 歌謡発表 さくら荘手打ちそば教室 お茶席 さくら荘売店（ぶりむら）囲碁大会 焼きそば 手芸品販売 コープ守谷など ※来場者数 約1,330名 桜は散っていましたが、大勢の来場者が見えた。演芸では、会場が一体となり出演者に観客から拍手や歓声が上がっていた。 	
	課題				
	<ul style="list-style-type: none"> ・出展者がさくら荘敷地内駐車場に停めていた為、一般来場者用の駐車場の説明や案内が周知できてなかった。 				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	<ul style="list-style-type: none"> ・来場者用の駐車場の案内やチラシを作成し、来場者へ配布して駐車場の場所案内をする。 				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアグループ、各種団体との連携。 ・市役所（高齢福祉課、広報広聴課、産業振興課）との連携。 ・つつじ園、福祉センターふじしろとの連携。 ・近隣住民との連携。 				
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明		
		30年12月～31年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・さくらまつり（平成31年度開催）ボランティアグループ、各種団体へ依頼と打ち合せを行う。また、駐車場確保の為、関係者に依頼と打ち合せを行う。 ・広報とりで、社協情報誌、フェイスブック、ミニコミ誌などに掲載する。 		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
第二次地域福祉活動計画も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成30年度	
実施項目名	さくら荘 敬老まつり	担当係		老人福祉センターさくら荘
		担当者	職名	主幹
事業開始年度	平成26年度		氏名	後藤 伸二郎
根拠法令等	老人福祉法			
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう ― 福祉サービスの充実	
	行動計画	③.(2)	魅力あるイベントの開催	
現状と課題	高齢者が気軽に通える居場所が少なくなっている中で、ふれあいの機会を増やす場としての老人福祉センターさくら荘の役割はより大きくなってきています。この目的を果たすためには利用者を増加させることを求められています。今年度もさらに利用者の増加を図るため、引き続き魅力あるイベントを開催します。			
目的 (何のために)	高齢者のふれあいの機会を増やすために魅力あるイベントを開催し、さくら荘の利用者をさらに増加させる。			
対象 (誰・何を対象に)	市内在住の60歳以上の高齢者及び一般市民			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させた のかなど)	<ul style="list-style-type: none"> ・さくら荘敬老まつりは敬老の日前後に行い、カラオケ大会や各教室発表と展示（書道、絵画、手芸）をする。 ・群馬県みなかみ町「奥平温泉」の湯を取り込み、高齢者や市民の方に疲れた体を癒していただく。また、さくら荘からの素晴らしい景観を見て心を和んでいただく。 ・さくら荘そば打ち教室の方による「そば販売（限定50食）」を行う。（8月の広報とりで、社協キューピットに掲載予定） 			
平成30年度 の実施状況	<p>①カラオケ大会は市民に無料にて提供する。カラオケ大会の司会、進行は生きがい教室ひまわり会に依頼した。</p> <p>②敬老週間ということで、15日（土）から17日（月）まで開館し、お風呂は群馬県みなかみ町奥平温泉「遊神館」を提供する。業者は栃木県の「温泉屋」に依頼した。</p> <p>③さくら荘そば打ち教室による「手打ちそば」限定50食：250円にて販売予定（9月3日）</p>			

進行管理	成果状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月～3月	3	<ul style="list-style-type: none"> ・9月15日（土）～17日（月）「さくら荘敬老まつり」を開催。 ・群馬県みなかみ町奥平温泉を取り込んだ。 ・参加者 カラオケ大会（生きがい教室31名、一般10名） そば客50名 そば打ち12名 来賓5名 	
	課題				
	温泉を取り込むことは良かったが、思った以上に入浴者が少なかった。さくら荘敬老まつりのPRが足りなかった。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	今まで以上にポスターやフェイスブックなどのPRを積極的に行っていく必要があると感じた。さくら荘の景観を活かした魅力ある企画を考案していきたい。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	<ul style="list-style-type: none"> ・各参加団体（生きがい教室、そば打ち教室）との連携。 ・市役所（高齢福祉課、広報広聴課）との連携。 ・温泉業者との連携。 				
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明		
		31年4月～32年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・各参加団体への依頼と打合せを行う。 ・広報とりで、社協情報誌、フェイスブック、キューピットに掲載して情報を分かり易く発信する。 		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
第二次地域福祉活動計画も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成30年度	
実施項目名	郷土史巡りウォーキング	担当係	老人福祉センターさくら荘	
		担当者	職名	主幹
事業開始年度	平成26年度		氏名	後藤 伸二郎
根拠法令等	老人福祉法			
プランにおける 該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう ― 福祉サービスの充実	
	行動計画	③	魅力あるイベントの開催	
現状と課題	高齢者が気軽に通える居場所が少なくなっている中で、ふれあいの機会を増やす場としての老人福祉センターさくら荘の役割はより大きくなってきています。この目的を果たすためには利用者を増加させることを求められています。今年度もさらに利用者の増加を図るため、引き続き魅力あるイベントを開催します。			
目的 (何のために)	高齢者のふれあいの機会を増やすために魅力あるイベントを開催し、さくら荘の利用者をさらに増加させる。			
対象 (誰・何を対象に)	市内在住の60歳以上の高齢者			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させたい のかなど)	小貝川源流と重要文化財を訪ねるを12月までに実施。 案内役として新四国相馬霊場八十八カ所を巡る会の会員の方にお願ひし、取手市内の史跡巡りを実施する。健康促進と教養の向上を図ると共に、高齢者のふれあいの機会を増やすことを目指したい。			
平成30年度 の実施状況	①新四国相馬霊場八十八カ所を巡る会員代表者と8月、11月に打合せを行った。平成30年度は、12月上旬に実施した。 ②さくら荘を拠点として相野谷川源流を巡るウォーキングをする。 ③完歩賞として、障害者福祉センターつつじ園のさをり織り製品を参加者へ進呈する。			

進行 管理	成果状況評価		成果状況に対する説明	
	成果 状況	4月～ 3月	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 12月8日（土）「郷土史巡りウォーキング」開催。 申込み総数 29名 参加者24名 案内役4名 参加費 無料 ※完歩賞としてつつじ園さをり織り「猪」を進呈 ・ ポスターを福祉交流センター、あけぼの、さくら荘3カ所に掲示する。
	課題			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報とりで、キューピットで参加募集をしたが応募が少なかった。 			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ さくら荘周辺の郷土史ウォーキングではなく、バスでの小貝川源流の郷土史巡りなどを取り入れる。 ・ ポスター掲示等のPR活動を取手市内の公共機関に掲示する。 			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 案内役の新四国相馬霊場八十八カ所を巡る会の方達との連携。 			
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明	
		31年4月 ～ 32年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 案内役の新四国相馬霊場八十八カ所を巡る会の方達と日程、コース内容の打合せをする。 ・ 広報とりでに参加者募集の記事を掲載。 	
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
第二次地域福祉活動計画も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成30年度	
実施項目名	市内、小・中・高校の実習等受け入れ等による地域交流活動	担当係		つつじ園
		担当者	職名	係長
事業開始年度	平成26年度		氏名	寺田 一恵
根拠法令等				
プランにおける該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう 福祉サービスの充実	
	行動計画	④-(1)	お互いを理解しあう意識啓発に努めます。	
現状と課題	<p>これまで小・中・高校の実習の受け入れは行っており、昨年については、学生の夏休み期間を利用した学生ボランティア受け入れの促進として「夏ボラビ」と称して、取手市内の中学校・高校に呼びかけ実施し、登録17名、延べ42名の学生の皆さんに参加いただきました。今後も、継続的に「夏ボラビ」に取り組み、利用者と学生の皆さんの交流の場を作りたいと思います。</p>			
目的 (何のために)	学生の皆さんと交流を深めることによって障害を持つ方について理解していただくきっかけとなるようにします。			
対象 (誰・何を対象に)	つつじ園利用者、職員が近隣市町村の小、中、高校生を対象とします。			
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	<p>今後も、つつじ園近隣の戸頭小、戸頭中や取手二高、昨年の「夏ボラビ」での取り組みによってつながりを持った取手市内中学校、取手市近隣の高校に働きかけ、ボランティア活動の積極的な受け入れを継続します。</p> <p>つつじ園での、クラブ活動、清掃活動、作業、体力づくり等の時間に、利用者の皆さんと関われる機会を作ります。事前に打ち合わせや説明、受け入れ後のフォローアップ（ボランティア証明書発行等）を行い、継続的な活動を行っていただけるようにします。</p> <p>期間：平成30年4月1日～平成31年3月31日の通年 目標：学生ボランティア延べ人数前年比10%増</p>			
平成30年度 の実施状況	<p>今年で2年目を迎えた「夏ボラビ」は、延べ39名の学生の皆さんが参加された。高校の先生方とも更につながることができ、今年は夏ボラビの学生の様子などを担当の先生にお伝えすることができた。「夏ボラビ」の理解にもつながると思われるので、来年度も少しずつ改良を加えながら実施したい。</p> <p>夏ボラビ以外にも、学校側の行事内で取手一中、取手一高地球市民活動部、取手二高家政科において、職場体験や奉仕活動として来所され、その中で施設見学・障害の理解・職場体験などを実施した。</p> <p>つつじ園まつりには、夏ボラビを体験した学生が7名ボランティアとして参加していただいた。</p>			

進行 管理	成果状況評価		成果状況に対する説明
	成果状況	4月～3月	4
	<p>昨年同様、市内小学校、中学校、高校と働きかけ、ボランティア担当の先生方ともつながり、事前打ち合わせやポスター掲示、チラシ配布など今年度も継続した関係を保つことができています。</p> <p>実績としては、夏ボラビについては昨年の参加人数より少ないものの、新しく参加された方もおり、継続して取り組んでいる成果といえる。</p> <p>通年の学生ボランティアにおいても、平成30年12月までの段階で、昨年のほぼ9割を達成しており、目標の前年比10%増には至らないものの継続した学生との交流、意識啓発については一定の成果といえる。</p> <p>【夏ボラビ】昨年度 42名 今年度 39名 【通年学生ボランティア】昨年度 94名 今年度 91名</p>		
	課題		
	<p>取り組みとしては、現状を維持しているという状況となっています。学校等への働きかけを意識していくとともに、社協各事業所、ボランティア支援センター、各団体等のボランティアへの取り組みについて整理し関わっていくことで、より充実した働きかけができるのではないかと考えます。</p>		
	課題解決のための改善内容・取り組み方針		
	<p>次年度の取り組みの際、社協各事業所やボランティア支援センターと共に、学生ボランティアへの意識啓発や交流活動について連携し取り組んでいきたい。</p>		
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)		
	<p>市内小学校、中学校、高校との連携及び社協各事業所、ボランティア支援センターとの連携することにより、より取り組みに広がりを持つことができると考えます。</p>		
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明
	31年4月～	<p>つつじ園ボランティア担当や職員が改めて、各事業所やボランティア支援センター、各団体等のボランティア活動や取り組みについて再確認し、今後の取り組みの際に、その取り組み内容を整理し、より効果的な学生ボランティアへの啓発活動ができるよう連携していきたい。</p>	
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			
<p>第二次地域福祉活動計画も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。</p>			

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度		平成30年度	
実施項目名	学校授業における職場体験学習/福祉体験学習の受け入れ	担当係		取手市立障害者福祉センターあけぼの	
		担当者	職名	主事	
事業開始年度	平成27年度		氏名	石井 千晶	
根拠法令等	障害者の日常生活および社会生活を総合的に支援するための法律				
プランにおける該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう—福祉サービスの充実		
	行動計画	④	お互いを理解しあう意識啓発に努めます		
現状と課題	身体障害をお持ちの方への差別や偏見を無くすため、健常者と広く世代を超えた交流を図れる場を設けていく事が課題と考えられます。				
目的 (何のために)	身体障害をお持ちの方と身近に接し理解して頂くことにより、差別と偏見を無くすよう市民意識を変えていく中で、周辺学校(中学・高校)の若い世代を中心に意識啓蒙に努めていきます。				
対象 (誰・何を対象に)	あけぼの近隣の中学・高校の生徒を対象に行います。				
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	<p>①事業実施へ向けての準備期間(5～8月) 前年度交流を持った取手第二高等学校担当教諭と連絡を取り、今年度も同様にご協力頂ける様打ち合わせします。前年度職場体験の受入を行った取手市立戸頭中学校に、今年度も受入ができる旨を連絡し、日程調整等を行います。</p> <p>②事業実施(9月～3月) 年度内に3回程度、延べ20人以上の参加を持って実施。 事前にあけぼのの利用者へ事業の趣旨説明を行い、クラブ活動や行事等を通して障害当事者との交流を持てる機会を提供します。</p>				
平成30年度 の実施状況	<p>①5月11日、取手第二高等学校へ伺い、担当教諭に今年度の協力依頼をし、了承を得る。7月12日、電話連絡にて9月に行う音楽療法のリサイタルに昨年同様、吹奏楽部生徒の参加をお願いし、了承を頂く。11月に取手市立戸頭中学校に電話連絡を行い、11月8日訪問にて、職場体験の受入の連絡及び、施設内での吹奏楽部の演奏会のお願いをし、了承を頂く。</p> <p>②9月28日音楽療法のリサイタルに、取手第二高等学校の吹奏楽部6名が来訪され、ビートルズの曲とスタジオジブリの曲の2曲を演奏して下さる。演奏後利用者との交流を行うなどして、楽しめる。1月19日取手市立戸頭中学校吹奏楽部24名をお呼びし、演奏会を行う。同じく取手市立戸頭中学校より、2月6日・7日・8日に2名の学生が職場体験を行う予定。</p>				

進行 管理	成果状況評価		成果状況に対する説明	
	成果 状況	4月～ 3月	3	
				9月28日、取手第二高等学校より、音楽療法のリサイタルに吹奏楽部の生徒6名が来所。昨年は見学のみだったが、今年は演奏もして頂き、利用者やお客様に大変喜んで頂けた。1月19日、戸頭中学校・吹奏楽部の学生19名が来所。老人センターあけぼの大広間を借り、約1時間演奏会を行う。演奏のみではなく、歌やダンスもあり、利用者及び老人センターのお客様も大変楽しまれていた。
	課題			近隣の高等学校及び中学校の生徒や学生の方々に、施設の方へ来て頂き交流を行うことはできたが、交流先が固定化してしまっている。
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			複数の学校の児童生徒と広く交流の場を設けることができるよう、年度当初より近隣小中学校を訪問し、実習担当教諭との打合せを実施。児童生徒の年間指導プログラムに組み入れてもらえるよう依頼し、事業実施に繋げていきます。
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			近隣の中学校及び高等学校に呼びかけ、あけぼのにおける実習や各活動の発表等(音楽クラブコンサート、あけぼのまつりなど)の案内をする。
	今後の方向性		今後の方向性の説明	
		期間		引き続き体験学習等の受け入れを行い、交流を行うことで、身体障害者に対する理解を深めて頂き、差別と偏見をなくしていけるよう意識啓蒙していく。
		31年4月 ～ 32年3月		
	取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			第二次地域福祉活動計画も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成30年度																																				
実施項目名	地域の中学校・高等学校との交流事業	担当係																																					
		取手市立こども発達センター																																					
事業開始年度	平成27年度	担当者	職名																																				
			氏名																																				
		児童発達支援管理責任者																																					
根拠法令等																																							
プランにおける該当項目	行動目標	3	いろいろな支援を進めよう——福祉サービスの充実																																				
	行動計画	④	お互いを理解しあう意識啓発に努めます																																				
現状と課題	<p>■現状：中学校、高等学校を中心に発達センターの役割りについて理解を深めていただく為、療育（補助）へのボランティア参加を呼びかけている。私立高等学校1校との交流を年間を通して継続的に実施する。</p> <p>■課題：幼児教育、障害福祉に興味を持つ大学生のボランティア受け入れについて積極的に行なっていく。</p>																																						
目的 (何のために)	<p>■異世代間の交流により利用児とふれ合う機会を増やし、地域の中で発達センターが果たす役割りについて理解を深めていただく。</p>																																						
対象 (誰・何を対象に)	<p>■取手市内の中学生、高校生及び大学生。</p>																																						
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで にどのレベル まで達成させた いのかなど)	<p>■他事業所との情報共有を行ないながら、生徒達のボランティア体験の場として提供できるように学校側の福祉教育等にアプローチする。</p> <p>■ボランティアとして参加する生徒には単独通園の通常プログラムに参加していただき、利用児の様子や職員の利用児に対する関わり方等を実際に経験し理解を深めていただく。また、運動会やお楽しみ会等の行事においてもボランティアの募集を行なう。</p> <p>【交流の流れ】</p> <p>～ 9：30 打ち合わせ</p> <p>10：00～13：30 単独通園体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着替え補助、自由遊び ・朝の集まり、体操 ・課題（製作、感触遊び、散歩など） ・昼食、自由遊び ・帰りの会、降園 <p>■ボランティア体験後に感想等を踏まえ更に発達センターについて理解を深めていただく。</p>																																						
平成30年度 の実施状況	<p>■随時、ボランティアを受け入れ27名のボランティア希望があった。</p> <table border="0"> <tr> <td>4月</td> <td>保育士</td> <td>1名</td> <td>1日</td> </tr> <tr> <td>7月</td> <td>牛久栄進高校</td> <td>1名</td> <td>2日間</td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>牛久栄進高校</td> <td>1名</td> <td>3日間</td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>作業療法士</td> <td>1名</td> <td>1日</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>心理士</td> <td>1名</td> <td>1日</td> </tr> <tr> <td></td> <td>取手聖徳女子高校</td> <td>9名</td> <td>1日</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>作業療法士</td> <td>2名</td> <td>1日</td> </tr> <tr> <td>12月</td> <td>聖徳大学</td> <td>2名</td> <td>1日</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>取手聖徳女子高校</td> <td>9名</td> <td>1日</td> </tr> </table>			4月	保育士	1名	1日	7月	牛久栄進高校	1名	2日間	8月	牛久栄進高校	1名	3日間	9月	作業療法士	1名	1日	10月	心理士	1名	1日		取手聖徳女子高校	9名	1日	11月	作業療法士	2名	1日	12月	聖徳大学	2名	1日	2月	取手聖徳女子高校	9名	1日
4月	保育士	1名	1日																																				
7月	牛久栄進高校	1名	2日間																																				
8月	牛久栄進高校	1名	3日間																																				
9月	作業療法士	1名	1日																																				
10月	心理士	1名	1日																																				
	取手聖徳女子高校	9名	1日																																				
11月	作業療法士	2名	1日																																				
12月	聖徳大学	2名	1日																																				
2月	取手聖徳女子高校	9名	1日																																				

進行 管理	成果 状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月～ 3月	4	<p>■一般のボランティア希望者は、随時、受け入れを実施。27名の方を延べ12日間、発達センターの行事や単独通園等のプログラムに参加して頂き、センターが担っている療育指導を体験して頂いた。</p> <p>■聖徳大学、取手聖徳女子高校、牛久栄進高校の学生方には積極的に参加して頂いた。継続的に依頼できるように話し合っていきたい。</p>	
	課題				
	■ボランティア活動の際に「療育」について理解を高める。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	■ボランティア活動の前に事前打ち合わせを行い、具体的な対応方法を話し合う。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	■ボランティアを受け入れる時期の調整を行う。				
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明		
		30年4月 ～ 30年9月	■学生以外のボランティア希望が増えてきているため、継続的に依頼が出来るように話し合い声掛けを行う。		
	30年10月 ～ 31年3月	■高等学校や大学生のボランティア活動が継続して実施できるように、顧問の先生と話し合っていく。			
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
第二次地域福祉活動計画も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成30年度		
実施項目名	小地域助け合い活動		担当係	地域支援係	
			担当者	職名	係長
事業開始年度	平成26年度			氏名	小林一郎
根拠法令等					
プランにおける 該当項目	行動目標	4	みんなで集まり、協力しよう一連携強化と拠点づくり		
	行動計画	①	地域福祉推進体制を整備します		
現状と課題	小地域の中で様々な団体が活動し、それぞれの活動で成果を上げているが、地域全体でのネットワークや協働がない。地域包括ケアシステム構築に向けての協議体が組織され、地域の課題を話し合う場ができたが、課題解決に向けての新たな福祉サービスが求められている。戸頭地区ではゴミ出し等の軽作業をするサービスが生まれている。類似する地域でのこのような活動をどのように創出するかを研究し、活動を促進する。				
目的 (何のために)	新たなサービスや仕組みづくりに必要な人材等の調査研究し、地域には何が必要か、何ができるかを小地域の実情を把握し、より良い地域づくりを自治会・ボランティア・民生委員等、地域の中で活躍するの方たちや地域包括支援センターの協力も得てより良い地域づくりネットワークを構築する。				
対象 (誰・何を対象に)	自治会、ボランティア、民生委員、行政、企業、施設等団体の代表者				
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させたい のかなど)	地域包括支援センターと協力し、協議体やさらに小地域で行われる座談会等の会議に積極的に参加し、地域での課題や取り組みについての情報を共有する。小地域での活動の実態を調査研究する。さらに「助けあいのまちづくり」推進事業助成金の説明、地参地笑プロジェクトについても積極的広報する。				
平成30年度 の実施状況	第1層協議体への参加や第2層協議体、さらには地域包括支援センター各圏域で行っている座談会にも参加して、地域の実情を把握しました。また、今年度は地域の協議体の視察があり、鹿島市、つくばみらい市、結城市の協議体での活動について知ることができました。様々な手法で各地域で取り組まれているものを取手市に当てはまる内容について取り入れていけば、より良い地域づくりにつながります。				

進行管理	成果状況評価		成果状況に対する説明	
	成果状況	4月～3月	3	
	課題			
	4つの地域包括支援センターでそれぞれ活動の方向性ができていて地域に合った活動が展開されている一方で、なかなか見守りの組織化や生活支援サービスにまで発展することが難しい状況にあります。新たなサービスが生まれた地域もありますが、他の地域に反映させることが難しい状況にあります。			
	課題解決のための改善内容・取り組み方針			
	新たなサービスの構築について実際どのようなプロセスでどのような方々の協力で活動が行われているかなどの研究します。生活支援サービスの創出は、実際行っている地域を研究し、活動を行っている方たちの意見を参考に、他地域に合うよう、地域の団体やボランティアのつながりを検証し、類似サービスに発展させるような工夫が必要になります。社協もボランティア団体の情報を提供して、ネットワークの構築を協議体と連携して行っていき新たなサービスにつながる仕組みを作ります。			
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)			
	自治会町内会の活動について、市民協働課等より活動の情報などをいただき調査する。社協としても団体の情報を提供して必要なサービスに組み入れネットワークの構築を試みます。			
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明	
		29年4月～30年3月	今後も協議体や座談会での地域課題の解決への方向性や地域資源の把握、より多くの地域の情報を収集します。また、小地域での活動を行う自治会、町内会、自主防災会など、まちづくりの推進を行う団体が社協と連携し、情報を共有、他の地域の活動紹介など、活動に必要な情報を提供できるような仕組みづくりをします。	
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見				
第二次地域福祉活動計画も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。				

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成30年度	
実施項目名	助けあいのまちづくり推進事業	担当係		地域支援係
		担当者	職名	係長
事業開始年度	平成27年度		氏名	小林一郎
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	4	みんなで集まり、協力しよう一連携強化と拠点づくり	
	行動計画	①	町内会（自治会）の活動を支援します。	
現状と課題	自治会への加入率の減少、少子高齢化により、自治会の多くは活動が困難になっている。一方、今後ますます高齢化が進み、福祉サービスが不足する中で地域の助け合い活動が重要になってくる。地域でできることを考え、誰もが参加しやすい仕組みづくりが望まれる。助け合いのまちづくりを行う団体に対して助成を行えるよう、広報の充実を図りこの事業を多くの団体に知っていただく。			
目的 (何のために)	誰もが地域のことを考え、より良い福祉のまちづくりを実現するために、地域住民による「支えあい」「助けあい」による取り組みに対して活動費の一部を助成する「助けあいのまちづくり」の推進を図ることを目的とする。			
対象 (誰・何を対象に)	取手市内自治会、町内会			
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまでに・どのレベル まで達成させたいのかなど)	4月市政協力員総会において「助け合いのまちづくり」推進事業助成金の募集要項を配布。地域を良く知る市政協力員の皆さんに「助け合いのまちづくり」推進事業について広報をし、新規事業等計画していることへの助成金制度を知ってもらい、趣旨に合った団体を選定し助成額を交付する。広報とりで6月1日号で「助けあいのまちづくり推進事業」の内容等記載し募集をかける。助成金は1団体につき、1回に限り10万円を上限とし、上限の総額20万円2団体に助成する。			
平成30年度 の実施状況	4月、市政協力員総会において「助け合いのまちづくり」推進事業助成金の募集要項を配布。広報とりで6月号で「助けあいのまちづくり」推進事業助成金について広報し、広く助け合いのまちづくりの活動を推進する地域を募りました。今年度は、戸頭自主防災会、双葉自主防災会、もりんてっと(子供向け木のおもちゃでのレクリエーションを推奨する団体)の3団体から応募があり、助成金を交付しました。			

進行 管理	成果 状況	成果状況に対する説明	
		4月～ 3月	4 「双葉自主防災会」では毎月1回行っている研修会に関する経費に対する助成、「戸頭町会」には、一時避難所の開設に関する暖房器具などの備品購入に対する助成、子供向けの木のおもちゃでのレクリエーションを推奨する団体「もりんてっと」には木製のおもちゃの購入費用等の助成を行いました。
	課題解決のための改善内容・取り組み方針		
	助け合いのまちづくり推進事業助成金への問い合わせが少なく、周知されていない可能性があり、広くこの事業を知ってもらえるよう、様々な会議等で説明をして、多くの地域の参加により、多くの地域でまちづくりに関して考えてもらえるようにします。		
	課題解決のための改善内容・取り組み方針		
	広報活動の充実、どのような目的かを明確にし、まちづくりについての重要性、関心を持ってもらえるように説明する。また、今年度の取り組んだ地域と同じような活動をしている自治会、自主防災会等を対象にまちづくりに必要な経費として助成金を活用してもらえるよう説明を行います。		
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)		
	協議体やそれに付随する座談会等で参加者である自治会、町内会、自主防災会等の役員に趣旨説明をし、参加を促す。		
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明
		30年4月 ～ 31年3月	平成31年度も1団体10万円を限度に総額20万円として地域のまちづくりに対して助成金を交付する。様々な地域づくり今後のまちづくりの参考にして、社協での取り組みの方向性についての参考にする。
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			
第二次地域福祉活動計画も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。			

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成30年度		
実施項目名	共生型地域交流拠点の設置・運営		担当係		障害者福祉センターふじしろ
			担当者	職名	係長
事業開始年度	平成28年度			氏名	濱田正之
根拠法令等					
プランにおける 該当項目	行動目標	4	みんなで集まり、協力しよう一連携強化と拠点づくり		
	行動計画	-3	地域のニーズに応じた社協活動を進めます		
現状と課題	藤代地区においてはボランティア活動への参加者が不足しているのが現状です。また、その参加者においても高齢化が見られるとともにや参加者が特定の人に限られています。各世代の交流はあっても、子供から高齢者まで幅広い世代間の交流を持てる機会や場所がないことも今後の課題であると思われまます。				
目的 (何のために)	地域住民が出会い、世代間・障害の有無などの垣根を越えてつながり、理解し合い、共に助け合っていることが実感できるまちづくりのきっかけをつくることを目的とします。				
対象 (誰・何を対象)	市民全般を対象にします。				
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまで に・どのレベル まで達成させた いのかなど)	<p>障害者就労支援の場として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害のある方が地域住民とふれあいながら自分らしく就労できる場所を提供します。 「カフェウエルカム」「福祉の店」の運営 <p>ボランティア活動の場として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉センターふじしろでのボランティア活動を通じて、障害のある方と交流し助け合うことの大切さを実感できる場所づくりを進めます。 ・ 活動の活性化をめざしボランティアポイントカード「ボラビカード」の運用に力を入れ、季節ごとの魅力あるキャンペーンを実施していきます。 ・ 夏休み期間中の学生を中心とし若い世代のボランティアの開拓に努めます。 「ボランティア参加者数前年度5パーセント増」 <p>地域コミュニティ推進の場として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ふれあいフリーマーケットの共催による実施 ・ 近隣福祉施設等が参加する「食」をテーマ「ふじしろハーベストマーケット」の開催 ・ ワークショップの開催 ・ 拠点内、レンタルギャラリーの一般開放の実施、新たな利用希望者の開拓 ・ 認知症カフェの開催 なごみの郷主催「喫茶 和」年4回 回想法主催「レミニンカフェ」年12回 				
平成30年度 の実施状況	<p>・ 障害者就労支援の場として 就労訓練実習に取り組むスタート時には利用者は2名ほどでしたが現在は8名の利用が就労訓練実習参加しています。接客以外でも清掃、開店準備、仕込みなど利用者の活躍の場は増えています。</p> <p>・ ボランティア活動推進状況 平成30年12月末現在、ボランティア参加延人数441名 (平成28年217名、平成29年515名) 夏休み期間中に学生ボランティアを募集し受け入れる 参加者26名</p> <p>・ 地域コミュニティ推進の場として 拠点内レンタルギャラリーにおいて市民団体、愛好会等の作品展示。 2団体の主催による認知症カフェ年16回開催。 地域交流福祉イベントとして「ふじしろハーベストマーケット」開催。来場者約600人</p>				

進行管理	成果状況	成果状況評価		成果状況に対する説明	
		4月～3月	4	<ul style="list-style-type: none"> ・カフェウエルカムに関わる作業を分析、細分化し様々な利用者が活躍できる場を設けることでその特性に合わせて接客以外でも様々な場面において実習に取り組むことができている。利用者もカフェで働くことを目標に頑張っている様子が伺えた。 ・カフェにおけるボランティアを中心に日常的に参加していただけるボランティア増え、ボラビカード満点による善意銀行寄付を複数回していただいたボランティアも多数在籍している。 ・レンタルギャラリーは取手市内を中心に様々な作品の愛好家団体が展示を申し込みいただき、口コミで展示希望者は少しずつ増えている。再度の申し込みを希望する団体も多くある。 ・地域福祉の推進、交流の場として開催した「ふじしろハーベストマーケット」、では前年度を上回る来場者を記録した。 	
	課題				
	カフェウエルカムの運営により、地域住民の利用は増加し、顧客も増えているが、客層は高齢者が大半をしめている。幅広い世代の交流を目指している共生型地域交流拠点としては、11月に開催された「ふじしろハーベストマーケット」のようなイベント時だけでなく、小中学生や子育て世代層の利用も促すためには、次年度における具体的な取り組みが必要。				
	課題解決のための改善内容・取り組み方針				
	幅広い世代の交流の場として、近隣小中学校や市内高校と連携を取り、ボランティア学生主体の具体的な取り組みを企画、運営したい。 子育て世代層のカフェ利用を促すため、より居心地のいい空間作り、メニューの刷新、定期的な魅力あるイベントなど随時実施し集客につなげていきたい。				
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)				
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明		
		31年4月～32年3月	ウエルカムの認知度は少しずつ上がってきているものの、まだまだふじしろ地区においても営業していることを知らない方もいらっしゃいます。近隣住民の皆さんとのふれあいの機会を増やすべく、まずは市内小中学校、高校と連携し共同企画のワークショップ等、若者が興味を持って参加できるイベントの開催を検討。新規メニューを取り入れたキャンペーン等の開催も定期的に行いたい。		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見					
第二次地域福祉活動計画も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。					

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成30年度	
実施項目名	子育て支援の輪づくり	担当係		地域支援係
		担当者	職名	主幹
事業開始年度			氏名	廣瀬嘉子
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	5	子どもたちを地域で育もう	
	行動計画	①	家族ふれあいの機会をつくります。	
現状と課題	仕事と育児の両立をしている働くママ世代の不安を抱えている方への不安を最小限にし、またコンディションを保つために支えていく。地域で支える環境づくりを取り組みます。			
目的 (何のために)	子育て中の親子が交流・世代間を超えた居場所づくり。			
対象 (誰・何を対象に)	ファミリーサポートセンター利用会員・協力会員、または市内の親子			
事業・業務の 具体的内容等 (何を・いつまで に・どのレベル まで達成させたい のかなど)	多くの世代の方々が良い影響を与えているといわれている世代間交流をおこないません。子育てやしつけに関する悩みを解消するには、子どもを持つ親と地域の子育て経験者が交流する機会を設けて子育て支援のネットワークが重要である。そこで、まず前期は利用会員・協力会員の全会員交流会では音楽鑑賞を楽しみ、その後意見交換会と交流会を実施します。後期の研修は子育て支援課と協働での実施を計画中。			
平成30年度 の実施状況	今年度の計画としては子育て支援課が開催の子供に伝わりやすい話し方、ほめ方、叱り方を身に付けて子育ての負担を軽減する「どならない子育て練習法」の講習会を子育て支援センター2会場で開催されました。計画としてはこれら子育て支援課とコラボで実施したいと考えておりました。しかし今回は残念ながら日程が合わず、子育て支援課とのコラボを実行することが出来ませんでした。			

進行 管理	成果状況評価		成果状況に対する説明
	成果 状況	4月～ 3月	3
	子育て支援課とのコラボでの講演会は実行できませんでしたが、折り紙講習会を開催しました。日本折り紙協会の折り紙講師である志澤先生をお招きし、会員からの要望が多かった「折り紙教室」を開催いたしました。古くから伝わる文化として、また趣味・教養など様々な可能性がある折り紙教室への参加は10名でした。また簡単に作れる折り紙も好評でした。		
	課題		
	研修会の協力会員の参加率が高いですが、利用会員の参加が少ないのが課題となっています。現在の子育て中の方は、フルタイムで勤務している方が多い為、出席率が低いのが現状です。		
	課題解決のための改善内容・取り組み方針		
	一昨年前と同様に開催日時を土日にするなど検討し、計画したいと考えています。		
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)		
	子育て支援を担当する子育て支援課との連携を図ることは重要なことと考えられます。年6回開催しているミーティング時にも情報を交換していく。		
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明
31年5月～ 31年8月		会員のニーズ調査をしながら社協独自で開催する講習会、または子育て支援課と協働で出来るイベント等の計画をたてる。	
31年9月～ 31年12月	ファミリーサポートセンターのお便りでのお知らせだけでなく、個人的に参加依頼を促す。		
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			
第二次地域福祉活動計画も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。			

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成30年度	
実施項目名	子ども会協働事業	担当係		地域支援係
		担当者	職名	係長
事業開始年度	平成27年度		氏名	小林一郎
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	5	子育て支援の促進	
	行動計画	①	子ども会活動を支援します	
現状と課題	自治会の活動で役員になりたがらないという話が聞かれる。子供会の活動は将来その地域にかかわる第一歩であるため重要となる。将来の地域を支える起点として従来の子ども会活動とは視点を換え、防災、防犯など自治会が行う地域の活動に参加しながら地域に目を向け今の子供たちが将来大人になった時、地域に関心を持ち、自分でも積極的に子供会活動や自治会活動に参加できるような仕組みを作る。			
目的 (何のために)	将来を担う子供たちは地域の中で様々な人たちの中で暮らしていることを学び、スクールガードや防災、防犯など小地域活動を支える、地域での助けあい活動に参加するなどボランティア精神も養いながら自然と地域に対する関心を植え付け、同時に子供会も積極的に参加できるように促す。			
対象 (誰・何を対象に)	子育て世代、シニア、児童等			
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	社協の福祉体験ボランティアの派遣や社協イベントの開催等、参加を募る。また、活発に行っている子ども会を視察。自治会の協力を得て、地域のイベント等に参加するための仕組みづくりや協力体制について研究する。			
平成30年度 の実施状況	5月に行われた子供会育成連合会総会において各子ども会の方たちに向けて「やさしい心の種をまく」を配布。社協で行っている福祉体験ボランティアの派遣等、取り組みについてを知ってもらうため、広報活動を試みました。8月南町会の子ども会へ和太鼓ワークショップの案内を出し、参加協力を依頼し、子ども会内で参加を募ってもらいました。昨年の参加者に連絡を行い20名の参加がありました。また、桜が丘自治会のさくら文庫より子供向けの映画上映会を行ってほしいとの要請で、常総広域ライブラリー所蔵のアニメ作品とビデオプロジェクターを借用して上映会を実施しました。			

進行管理	成果状況	成果状況に対する説明	
		4月～3月	3 子供会への「やさしい心の種をまく」の配布により福祉体験の依頼が期待されましたが、今年度は依頼がありませんでした。今後も継続して行い、福祉体験を子供会で実施するよう目指します。また、今回行った桜が丘自治会のように子供向け映画会や和太鼓ワークショップへの参加を募るなど参加協力が得られました。前回参加した方への参加要請は効果があり、さらに知人への紹介により参加者が増加しました。アプローチ方法にも工夫をして、他の地域での協力してもらえるよう働きかけをして参加につなげます。
	課題		
	子ども会での行事のほかに社協の行事を組み込むのが難しい状況にあり、協働で開催できるような行事についての研究が必要です。		
	課題解決のための改善内容・取り組み方針		
	福祉体験など、比較的取り組みやすい事業の紹介。福祉体験ボランティアにも協力してもらい、学校以外での子ども会の行事として行ってもらい、活動の幅を広げていけるよう協力を仰ぐ。子ども会で現在行っている行事と組み合わせられるものがないか、社協との協働による活動につなげる魅力ある行事について研究し、協働での行事を開催を目指します。		
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)		
	子ども向け映画会では常総広域ライブラリーの所有しているリストを提供していただき、それを紹介して好きなものを借りて上映を行いました。今後も様々なジャンルがあるライブラリーを有効活用し多くの地域で上映会を実施していきます。		
	今後の方向性	期間	今後の方向性の説明
		30年4月～31年3月	引き続き子供会への「やさしい心の種をまく」の配布の実施や子供向け映画会やイベントを多くの地域で開催できるよう広報活動を充実させ、参加協力を募り、協働で行事ができるような関係作りを行います。
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			
第二次地域福祉活動計画も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。			

第一次取手市地域福祉活動計画実施項目シート

		シート作成年度	平成30年度	
実施項目名	子育てネットワーク推進	担当係		地域支援係
		担当者	職名	係長
事業開始年度	平成26年度		氏名	小林一郎
根拠法令等				
プランにおける 該当項目	行動目標	5	子どもたちを地域で育もう	
	行動計画	①	親子交流の場の整備に努めます	
現状と課題	<p>子育て支援センターなど子育て世代が集う場所はあるが、小地域で地域ぐるみの交流場所がない。また同世代のみの交流になり、地域活動への参加にはつながらない。昨年度は4ヶ所の子育て支援センターで「ブレインジムメソッドをベースにした親子向けプログラム」を実施した。また、ブレインジムインストラクター貝塚氏の協力で親子で行えるエクササイズや遊びなどのマニュアルを作成。0歳から1歳、1歳から3歳、3歳から6歳の年齢ごとに3タイプのマニュアルができた。今年もブレインジムを知ってもらいながら、子育て支援につながる活動にしたい。</p>			
目的 (何のために)	<p>小地域の中で子育て世代と地域社会のつながりをつくる。子育て世代のみならず地域住民が参加しやすい場を設け交流することによって地域でともに支える環境づくりをする。</p>			
対象 (誰・何を対象に)	<p>子育て世代、シニア、児童</p>			
事業・業務の 具体的内容等 (何をいつまでに・どのレベルまで達成させたいのかなど)	<p>4ヶ所の地域子育て支援センターで「ブレインジムメソッドをベースにした親子向けプログラム」を開催。保護者への興味関心を持ってもらうために定期的に行えるようにする。興味を持った方を対象に親子向けブレインジムサークル1ヶ所の立上げを目指す。</p>			
平成30年度 の実施状況	<p>ブレインジムインストラクター貝塚氏の協力で親子で行えるマニュアルを利用しながら今年度は白山子育て支援センターと戸頭子育て支援センターにおいて「ブレインジムメソッドをベースにした親子向けプログラム」を3月に開催します。</p>			

進行 管理	成果 状況	成果状況に対する説明	
		4月～ 3月	3 4ヶ所の子育て支援センターで行う予定だった「ブレインジムメソッドをベースにした親子向けプログラム」が2ヶ所での開催になってしまい、今後は4ヶ所で定期的に行えるよう、マニュアルをもとに各子育て支援センターに活動についての説明をして、活動の体制を整えます。
	課題		
	昨年行った子育て支援センターでの「ブレインジムメソッドをベースにした親子向けプログラム」はおおむね好評だったため、定期的な活動につなげることを目指します。		
	課題解決のための改善内容・取り組み方針		
	子育て支援センターで定期的な開催をできるように子育て支援センターの職員との意見交換をもとにより良いマニュアルにし、継続的な活動ができるようにします。		
	協働・連携事項(目的達成のために他部や他実施項目との協働・連携について)		
	親子間で行うブレインジムは、実際の説明はインストラクターの貝塚さんが行うがブレインジムサークルのボランティアにも協力してもらいながら実施できるようにします。また、各子育て支援センターの方の意見等も取り入れながら進めます。		
	今後の 方向性	期間	今後の方向性の説明
		30年4月 ～ 31年3月	4ヶ所の子育て支援センターでの定期的な開催を目標に、子育て支援センターに通う保護者の方への広報を行い、レクリエーションの内容の確立に努めます。
取手市社会福祉協議会運営委員会委員からの意見			
第二次地域福祉活動計画も住民のニーズに沿った計画を進行していただくよう継続的な管理をお願いします。			